枢密院本會議議事概要

九月二十六日午後九時四十五分開會
宮中東溜ノ間ニ於テ
出席者
金子顧問官及田中顧問官ヲ除ク全顧問
官出席
全閣僚出席
説明員ハ審査委員會ト同様
天皇陛下九時四十五分出御
原議長開會ヲ宣ス
鈴木副議長審査委員長トシテ委員會ノ經過

(日本標準規格B5)

ヲ報告シ本條約締結ニ伴フ政府ノ施策万全ヲ期スルコト対英米関係ニ於テ無用ノ刺戟ヲ避クルコト等ノ希望ヲ附加シタル審査報告ヲ朗読ス

石井顧問官

本案ニ賛成ナルモ近代ノ同盟ハ古代ノ同盟トハ異リ和親関係ノ続会ニ過ギザルモノナリ歴史ノ教ル所ニ依レバ同盟国間ノ関係ハ頗ル難シキモノナリ殊ニ独逸ハ最モ警キ同盟国ニシテ独逸ト同盟ヲ結ビタル国ハ凡テ不慮ノ災難ヲ被ムリタリ「ビスマルク」ハ嘗テ同盟ニハ常ニ騎馬武者ト駕馬トアリト云ヘリ事実独逸ガ同盟国タル土、墺ヲ遇スルコト恰モ騎馬武者ガ駕馬ヲ操ルガ如シ彼等ノ独立性ハ完全ニ失ハレタリ或ハ「ナチス」ハ帝国独逸トハ異ルト云フ論ヲ為スモ

(日本標準規格B5)

B-0059

モアルナランモ「ヒトラー」モ国際条約ヲ以テ一片ノ紙片ト見做ンコトハ昨年有日独間ニ防共協定アルニ拘ラズ独蘇不可侵条約ヲ結ビタルコトニ依リテモ解ル通リ次ニ伊太利ハ如何伊太利ハ「マキアベリー」ヲ生ミタル国ニシテ独逸ト同盟ヲ結ンデ之ヲ無視シタル独逸以上ノ強者ナリ今度此ノ独伊両国ト同盟ヲ結ビ地第ナルヲ以テ条約ノ違角ニ付テハ充分心ヲ配ベカラズト思考ス然レ共今日ノ日独伊ノ如ク利害関係ノ全ク一致セル国ハ古今東西ヲ通ジテ稀ニシテ此ノ三国ガ結合スルコトハ蓋シ自然ノ勢ト云フベク此ノ見地ヨリ本条約ノ締結ハ国策トシテ當ヲ得タルモノト思考ス唯之カ運用ニハ充分注意スル必要アルベシ議長賛否ヲ起立ニ問ヒ全員起立満場一致可決時ニ午後十時十分ナリ

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

Court Exhibit #1030 6-NOV 1946

206

第四、日獨伊三國條約ニ關スル樞密院審査委員會議事概要

（松本條約局長手記）

昭和十五年九月二十六日午前十一時二十分開會

宮中東三ノ間ニ於テ

出席者

樞密院側　原　樞密院議長

鈴木　樞密院副議長（審査委員長）

欠席ノ金子顧問官及田中顧問官ヲ除キ全顧問官審査委員トシテ出席

政府側　近衛　内閣總理大臣

松岡　外務大臣

東條　陸軍大臣

及川　海軍大臣

河田　大藏大臣

星野　企畫院總裁

他ニ説明員トシテ

村瀬　法制局長官

松本　條約局長

武藤　軍務局長

阿部　軍務局長

原口　爲替局長

辻　監理局長

森山　第二部長

松隈　銀行局長

外務省

（日本標準規格B5）

206

外務省

（日本標準規格B5）

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

議事

一、委員長開會ヲ宣シ書記官ヲシテ條約案文ヲ朗讀セシム

二、近衛總理大臣別紙甲號ノ通挨拶ヲ述ブ

三、松岡外務大臣別紙乙號ノ通說明ス

四、席順ニ依リ質問ニ入ル

河合顧問官　本官ハ本案ノ趣旨ヲ完全ニ了解セリ本官トシテハ兼テヨリ日獨伊同盟ノ成立ヲ希望シ居リタルモノニシテ松岡大臣就任以來其ノ速ナル實現ヲ期待シ一部ニ松岡大臣ノ活動ヲ手緩シトスル論モ耳ニシタルガ今回遂ニ之ガ成立ヲ見タルハ欣快ニ堪エザル所ナリ只今ノ松岡大臣ノ說明ニ依レバ伊太利ノ態度ハ明ナラザル處此ノ點ヲ承リ度シ

(日本標準規格B5)

松岡大臣　本件話合ハ先程モ述ベタル通リ日獨間ニ始メラレタルモノニシテ獨側ハ最初ヨリ伊太利ノ方ハ引受ケ居レリト申述ベ居リタリ昨日伊太利大使ハ本大臣ヲ訪問シテ伊太利ハ本件交渉ノ一切ヲ獨側ニ委任シ日獨間ニ纏リタル條約案ニ伊側ハ全幅的ノ贊意ヲ表スル旨本國政府ノ訓令ニ依リ申入レ來リタル次第ナリ

河合顧問官　附屬ノ交換文書ヲ一覽スルニ日獨間ノ關係ノミヲ述ベ居ル處伊太利ヨリモ同樣ノモノヲ取付クル必要ナキヤ

松岡大臣　實ハ我方トシテハ凡テ獨逸ニ重點ヲ置キ伊太利側ヲ附隨的ノモノト考ヘテ差支ナシト思考ス從テ交換文書ノ中ニ於テ獨逸外務大臣ガ伊太利ノ援助及協力ヲ必要トスル場合ニハ伊太利ハ勿論獨逸及日本ト同調スベキコトヲ絕對ニ信ズル旨ヲ掲ゲシムルニ

(日本標準規格B5)

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

止メタル次第ナリ

河合顧問官　條約第三條ハ最モ重要ト思考ス本官ハ日米開戰ヲ信ズルモノニ非ザルモ最悪ノ場合ヲ考慮シテ軍部大臣ハ何等敗ケヲ取ラザル丈ノ覺悟アリト信ズルガ之ニ就テ何等カ本官等ニ安心ヲ與フル樣御説明ヲ承リ度シ又蘇聯ガ日本ニ向テ事ヲ起サザルモノトモ限ラズ此ノ場合獨逸ハ如何ナル態度ヲ執ルモノト考ヘラルルヤ

東條陸軍大臣　本大臣ハ主トシテ陸軍ノ見地ヨリ御回答ス最悪ノ事態ニ陷リタル際對米作戰ニ要スル陸軍ノ兵力ハ極一部分ヲ使用スルニ過ギズ其ノ點ハ御懸念ハ無用ト思考ス然シ乍ラ對米作戰ハ結局對蘇作戰ヲ考慮セザレバ完全ナリト云ヒ難シ依テ日蘇ノ國交調整ハ極メテ重要ナル問題ニシテ之ガ有效ニ完成スレバ軍事的準備

(日本標準規格B5)

ハ余程樂ニナルモノト考ヘ得ル處蘇聯ノ性格上日本トシテ準備ヲ怠ル譯ニハ參ラズト思考ス尚支那事變ニ付テハ本條約ヲ有效ニ活用スルコトニ依リ最悪ノ事態發生前事變ノ解決ヲ圖リ度キ考ナリ

及川海軍大臣　現存艦隊ノ戰備ハ完成シ居レルヲ以テ決シテ米國ニ敗ケハ取ラザルモ戰爭ガ長期ニ亘ル場合ニハ米國ノ海軍充實計畫ノ實現ニ伴ヒ我方トシテモ充分ノ準備ヲ爲スノ要アリ此ノ點ニ付テハ海軍トシテモ萬全ノ策ヲ講ジ居ル次第ナリ

河合顧問官　本官ノ最モ心配スル所ハ物資ノ關係ナルガ一体長期戰トナリタル場合ドノ位ノ間ハ差支ナキ御考ナリヤ

星野企畫院總裁　昨日御説明申上ゲタル通リ（企畫院總裁ハ其ノ前日極密院定例參集ニ於テ物資動員計畫ニ付詳細ナル説明ヲ行ヘル

(日本標準規格B5)

B-0059

數年前ヨリ我國ハ諸物資ノ自給自足ヲ覺悟シテ準備シ來レルガ二十一億ノ輸入ノ中十九億ハ其米ニ依存セル有様ナルガ故ニ經濟上ノ壓迫强化ノ場合條約第三條發動ノ場合ヲ考ヘテ万全ノ策ヲ講ズル必要アリ鐵ニ付テ云ヘバ本年ノ生産高ハ五百二十万屯ノ見込ナルガ最悪ノ場合ニモ四百万屯ハ生産シ得ル見込ナリ現在軍備並ニ軍需ニ使用セルモノ百五十万屯其ノ他ハ生産力擴充並ニ民需官需ニ充當セルモノナルガ屑鐵ガ來ラザル場合又ハ微材ノ輸入ナキ場合ヲ考慮シテ生産力擴充ニ手加減ヲ加ヘ民需官需ヲ制限スレバ左程窮境ニハ立タザル見込ナリ非鐵金屬ニ付テハ鐵ノ様ニハ參ラヌモ世界中ヨリ目下蒐集ニ勉メ居ルヲ以テ之亦左程心配ハ要ラヌト思考ス最モ重大ナルハ石油ナルガ現在ハ多量ヲ米國ニ依存シ居リ

殊ニ航空機用揮發油ハ殆ンド全部ヲ米國ヨリノ輸入ニ仰ギ居ル處國内ノ増産ヲ圖ルト共ニ米國以外ヨリ獲得スル方法ヲ講ゼザルベカラズ最近航空油ニ付テハ相當ノ「ストック」ヲ得タリ然レ共對米戰爭長期ニ亘ル場合鐵其ノ他ノ金屬類ノ場合トハ異リ日滿支三國ノ中ノミニテハ自足出來ザルニ依リ出來得ル限リ速ニ圖印又ハ北樺太等ヨリ石油獲得極ヲ確保スル必要アリ此ノ點ニ付テハ今回ノ獨逸側トノ話合ニ於テモ問題トナリタル點ナリ又目下圖印ニ於テ平和裡ニ石油ヲ獲得スル交渉ガ行ハレ居ルモノト御了解願度シ

河合顧問官　昨日ノ御話ノ時ニモ石油ニ付テハ軍部ニ於テモ相當ノ準備アリト云フ意味ノコトヲ申サレタルガ軍部大臣ヨリモ御答辯願度シ

B-0059
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

及周海軍大臣　海軍トシテハ相當長期ノ準備ヲ有ス又人造石油ニ付テモ目下施策中ナリ

東條陸軍大臣　陸軍ノ資材ニ付テモ相當ノ期間ハ堪エ得ル様準備アリ非常ナル長期戰トナレバ航空機用、機械化部隊用ノ油ニ付テ考慮スル必要アリ

右ニテ一旦休會

午後一時十分再開

石井顧問官　第三條ニ依リ一國ガ攻撃セラルルトキハ直ニ參戰義務ヲ生ズルモノナリヤ何等カ此ノ點ニ付諒合アリタルヤ

松岡外務大臣　交換文書中ニ「一締約國ガ條約第三條ノ意義ニ於テ攻撃セラレタリヤ否ヤハ三締約國間ノ協議ニ依リ決定セラルベキ

コト勿論トス」（在京獨逸大使來翰）トアルハ御質問ノ點ヲ明確ナラシムル爲本大臣ノ要求ニ依リ挿入シタルモノニシテ攻撃アリタルヤ否ヤニ付テ協議シ協議纏マレバ自働的ニ共同シテ戰ハザルベカラザル處何時如何ナル方法ニ依リ援助スルヤハ締約國各々自主的ニ決定シテ協議スルコトトナル次第ナリ

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

石井顧問官　條文中ニ「直ニ」ト云フ字句モナキニ依リ外務大臣ノ說明ハ自分モ同感ナリ尙第四條ノ混合專門委員會ハ通常同盟條約ニアル軍事專門家間ノ協議ト解シ居リタルガ先程ノ外務大臣ノ說明ニ依レバ經濟的ノ問題モ右委員會ニ於テ協議スルモノノ如キ感此ノ點ニ付御說明ヲ承リ度シ

松岡外務大臣　本件ハ最初ハ條約ノ附屬諮問議定書中ニ規定スル筈ニナリ居リタリ同案ニ依レバ陸海軍ノ混合委員會ヲ東京ニ一、伯林又ハ羅馬ニ一ヲ設ケ其ノ他經濟委員會ヲ設クルコトトナリ居レリ然レ共諮問議定書ハ作成セザルコトトナリ此ノ點ハ條約成立後兩國間ニ協議シテ決定致度キ感經濟問題ヲ扱フ委員會ハ必要ト思考スルニ依リ設置スルコトトナルベシト考ヘ居レリ

(日本標準規格B5)

石井顧問官　本條約ニハ同盟條約ニ殆ンド必ズ存在スル單調不緯和ニ關スル規定ナキ處右ハ何等カ特殊ノ理由アリタル次第ナリヤ

松岡外務大臣　本件ハ一切話出ザリキ實ハ本大臣トシテハ先方ガ妥ヒ出セバ之ヲ挿入スルモ差支ナシト思考シタルガ先方ガ之ニ觸レザル場合ニハ之ヲ設ケザル方可ナリト思ヒタリ何トナレバ本條約ハ本大臣ノ考ニテハ戰爭ヲ防止スルコトガ目的ニシテ戰爭スルコトガ目的ニアラザルニ依リ關戰ヲ誘惑スル單調不緯和ノ規定ヲ設ケザル方可ナリト思ヒタルコトガ一ノ理由ニシテ、他ノ理由ハ萬一戰爭ガ始マレバ此ノ點ハ戰爭初期ニ亙ニ約束スレバ宜シト考ヘタルヲ以テ之ガ規定方ヲ申出ザリシ次第ナリ

石井顧問官　御意見御尤ト存ズ尙條約第一條ニ歐洲ニ於ケル新秩序

(日本標準規格B5)

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ト云フコトガアル点何ヲ以テ既開ノ新鉄序ト云フヤ判然タラシメザレバ日本ノ義務ガ判然タリ得ザルニ非ズヤ何カ此ノ点ニ付説明アリシヤ

松岡外務大臣　御尤ノ質問ト存ズルモ本大臣トシテハ新鉄序ノ意義ハ前文ニテ充分現ハレ居レリト思考ス前文ハ皆万ノ提案ニシテ個個ハ一字ノ修正ヲモ申出ザリシモノナリ

有馬顧問官　本條約ニ依リ日米戦争ヲ避ケ得キハ本官モ政府ト同感ナルガ日米ハ宿命的ニ戦ハザル[illegible]ベカラザルモノナラバ今日ガ最モ良キ時期ト考フ但シ最モ心配ナルハ石油ノ缺乏ナリ海軍大臣ハ相当ノ準備アリト云ハレタルガ日米開戦スレバ一年、二年ガ勝負ニ成スルモノトハ思ハレズ殊ニ今日ノ戦争ニ於テハ極メテ多量ノ石

(日本標準規格B5)

油ヲ使用セザルベカラザル点人造石油等モ果シテ全場ノ間ニ合フモノナリヤ心配ニ堪エザル次第ナルニ付此ノ点重テ海軍大臣ヨリ御説明ヲ得度シ

及川海軍大臣　人造石油ハ未ダ着手シタル許リニテ中々全場ノ間ニ合フトハ申サレズ依テ平和的手段ニ依テ前印又ハ北樺太ヨリ獲得スル他ナク之ガ成功スレバ相当有望ナリ従テ海軍トノ間交渉ハ此ノ点ヨリ云フモ重要ナリト存ズ又一方海軍トシテハ長期戦ニナレバ油ノ使ヒ節シモ考ヘザルヲ得ズ

有馬顧問官　ハイ、オタタン個ノ石油ハ充分間ニ合フ次第ナリヤ

及川海軍大臣　ハイ、オタタン個ノ石油ハ近年海軍ニテモ専門ノ研究機関ヲ設ケ海軍関係ノ方法ニテ製造シ居レリ又相当ノ準備モア

(日本標準規格B5)

B-0059

0131

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ル次第ナリ

廣田廣関官　條約第三條ノ文字上ヨリ見レバ現ニ歐洲戰爭又ハ日支紛爭ニ參入シ居ラザル一國ノ中ニハ蘇聯モ含マルルモノト考フルガ蘇聯トノ關係ハ如何ナルモノナリヤ獨逸ト蘇聯トハ何等カ話合アリタル次第ナリヤ

松岡外務大臣　其ノ點ハ既ニ第五條ヲ說ケタル次第ナリ尙本大臣ガ「スターマー」ニ對シテ蘇聯トノ間ニ何カ本條約ニ付話アリタルヤト訊ネタルニ對シ「スターマー」ハ否定的ノ回答ヲ爲シ居リタルガ本大臣ノ想像スル所ニテハ「スターマー」ハ「モスクー」通過ノ際蘇側ト何等カ話ヲ爲シ居ルモノト考ヘ居レリ其ノ證據ト思ハルル一ノ事實アルガ「スターマー」ハ八月二十三日ニ伯

林ヲ出發セル處同日「リッベントロープ」外相ハ來栖大使トノ會見ニ於テ何等本件ニ言及セザリシガ「スターマー」ハ廿四日ニ東郷大使ニ會見シタル際ニハ獨逸側ハ日本ト歐洲條約ヲ結ブスル積ナル旨ヲ話シ居ルヲ以テ其ノ間「スターマー」ハ蘇聯當局ト何カ話ヲ爲セルモノト思考セラル

廣田廣関官　米藤接近ノ噂モ聞ク處本條約ハ之ヲ促進スルコトトナル惧ナキヤ此ノ點ハ如何

松岡外務大臣　米藤接近ニ付テハ外務省ニ於テモ各方面注意シテ居相ノ把握ニ努メ居ル處今日迄確實ト認メラルル情報ニハ接シ居ラズ本大臣ハ未ダ具体的ノ何物モナシト考ヘ居レリ尙「スターマー」ハ目藤ノ間交渉整ノ處理ニ付テハ極メテ興味ニ其ノ可能性ヲ認ベ

B-0059
0132
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

鴨進ノ幹旋ヲ申出タル次第ニシテ此ノ點ハ交換文書ニモ記載サレタル通ナリ

石塚顧問官　條約ノ條文トシテハ本官ニ於テ異存ナシ但シ鴨進トノ關係ニ付テハ過去ノ實績ニ照シ百「パーセント」信用ヲ置ク能ハス行カズ防共協定及文化協定締結ノ際ニモ特殊ノ事項ニ付テハ見モ角全面的ノ提携ハ不可ナリトノ議論アリキ此ノ點ハ政府ニ於テモ充分御審査相成ナ條約實施ニ遺憾ナキヲ期セラレ度シ

諸水顧問官　本條約ノ調印者ハ誰ナリヤ

松岡外務大臣　「リッベントロープ」「チアノ」及來栖大使ノ三名ナリ

諸水顧問官　本條約ハ署名ト同時ニ實施セラルルコトトナリ居ル處之ハ憲法上差支ナシト思ハルルヤ

松岡外務大臣　新クノ如キ條約ハ前例モ多々アリ調印前ニ極密院ニ御諮詢相成リ御裁可アルモノナルニ依リ憲法上ノ問題ハ生ズル惧ナシ

諸水顧問官　問ク所ニ依レバ重慶ニハ未ダ鴨進人ノ技師ガ數名居ルト云フガ眞實ナリヤ

東條陸軍大臣　新カル情報ハアルモ眞相不明ナリ

諸水顧問官　我南洋委任統治地域ニ對シテモ何等カノ代償ヲ支拂フコトトナリ居ル處如何ナル譯ナリヤ

松岡外務大臣　此ノ點ニ付テハ鴨進側ハ目下委任統治トナリ居ル當鴨側ハ全部退進ヲ受クル迄前トナリ居リ與國タル日本ノミガ之ヲ

B-0059
0133
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

1134

極端セザルコトヲ認ムルハ原則ノ問題トシテ受諾シ得ズ從テ代償ヲ得テ日本ニ譲渡シタル形式ヲ採リ度シト主張セリ最初ハ相當ナル代償 adequate ト云フ字句ナリシヲ本大臣ノ主張ニ依リ in a way ト云フコトニシタルモノニシテ先方ハ此ノ代償ハ全然「ノミナル」ノモノニテ可ナリ例ヘバ商標[六]並ト云フ例モアリト云ヒ居リタル位ニテ極メテ軽キ意味ナリ

清水顧問官　本官ノ考ニテハ委任統治ハ今良調整ヨリ除外ヲ受クル必要ナキモノト思ハル

松岡外務大臣　自分ノ考フル所ニ於テハ立博士其ノ他有力ナル國際法學者ノ說ノ如ク領土ノ割譲ハナカリシモノト見ルノガ正シト思考ス從テ本大臣ハ三年以來「ヴェルサイユ」條約ヲ調整ガ實際上

(日本標準規格B5)

後來シタル以上日本ノ委任統治ハ取本占領ノ延長ト見ルノガ正シク從テ調整ヨリ除外ヲ受ケナキ事態ヲ到來スル必要アリト考ヘ居レリ

顧問官　伊太利ハ本條約ニ何時承認ヲ與ヘタリヤ

松岡外務大臣　先程モ御答シタ通リ伊太利ハ二十五日ニ在京大使ヲ本大臣ノ所ニ派遣シテ同意ヲ表明シ來レリ其ノ前ニ「リッベントロープ」外相ガ藤原ニ於テ伊太利側ノ同意ヲ取付ケタルモノナリ

顧問官　然ラバ十九日ノ御前會議ノ際ニハ伊太利ハ同意スルモノトモセザルモノトモ不明ナリシニ本件ヲ御前會議ニ附シ御裁可ヲ仰ギタルハ時期尚早ニアラズヤ

松岡外務大臣　調整側ハ最初ヨリ伊太利ノ同意ヲ確實ニ得タルルコ

(日本標準規格B5)

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

トヲ繰返シ述ベ居リタルノミナラズ御前会議ニテ発言シタルハ日
満間ニ一層強リタル結ニ依リ日満伊三国間ニ協約ヲ締結スル方針
ヲ附議シタルモノナルニ依リ何等並文ナカリシモノト考フ

外務省

南廟問官　大東亜ノ範圍ニ付テハ明白ナルコトヲ決メ居ラザルニアラズヤ

松岡外務大臣　交渉ニ當リ隨時話ヲ爲シ記錄ニ留メタリ

南廟問官　日英間ニ紛爭發生シタル場合ニ付特ニ交換文書アルハ如何ナル理由ナリヤ

松岡外務大臣　英國ハ既ニ歐洲戰爭ニ參戰シ居ルヲ以テ本條約第三條ノ場合ニ當嵌ラザルモ日本トシテハ日英戰爭ガ絶對ニナシトハ云ヒ得ザルニ依リ特ニ此ノ點ヲ獨逸側ノ好マザリシニ拘ラズ明確ニセシメタリ

南廟問官　本條約ハ日本ヨリ言出シタルモノナリヤ獨逸ヨリ言出シタルモノナリヤ

外務省

B-0059

0135

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

松岡外務大臣　獨逸ヨリ言出シタルモノナリ

南廟閣官　獨逸ガ斯カル提議ヲ爲スニ至レルハ對英作戰ニ失敗シタル爲ニアラズヤ

松岡外務大臣　對英作戰ノ長引キタルコトモ一ノ理由ナルヤモ知レザルモ右ガ全部ニハ非ズ數十年ノ長キ眼ヲ見テ獨米ノ爲時避ケ難シト見タル爲ナラント思ハル

南廟閣官　本條約ニ依リ米國ヲ牽制スルコトハ結構ナルガ米獨提携ノ危險絶對ニナキヤ

松岡外務大臣　米獨提携ノ可能性モ絶對ニナシトハ思ハレズ然レ共日米關係ノ改善ニハ獨系米人ノ米國ニ於ケル勢力ヲ無視出來ザルニ依リ此ノ點ニ於テモ本條約ノ價値アリト思考ス

(日本標準規格B5)

南廟閣官　石油ノ問題ハ先程ノ各大臣ノ回答ヲ承ルモ盛ヲ隔テテ御ヲ聞クガ如ク一寸モ安心出來ズ今少シ明瞭ナルコトヲ承リ安心セシメラレ度シ

企畫院總裁、陸海軍各大臣　先程モ御答シタル通リ陸海ハ極當貯藏アリ海外ヨリノ平和的獲得モ有望ナリト河合、有馬兩廟閣官ニ對スル回答ヲ繰返シ述ブ

南廟閣官　一方ニ於テ日支事變ガ繼續シ一方ニ於テ日米戰爭ガ勃發セバ日本ノ財政ハ如何ナルヤ大藏大臣ニ承リ度シ

河田大藏大臣　財政ガ窮屈ニナルコトハ勿論ナリ結局國民ノ貯蓄ヲ增進シ政費節約ヲ圖ル他ナシ

南廟閣官　次ニ日蘇關係ニ付承リ度シ萬一日米戰爭ガ起リタル場合

(日本標準規格B5)

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

蘇聯ハ恰モ歐洲戰爭前ニ英佛ト獨トヨリ引張凧トナリタルガ如ク日米兩國ヨリ提携ノ手ヲ蓋延スコトトナルベシト思ハル故ニ日米關係ヲ考フルニハ先ヅ蘇聯トノ國交調整ヲ行ヒテ後此ノ條約ノ交渉ヲ爲スコトハ出來ザリシモノナリヤ何故ニ蘇聯トノ交渉ヲ後廻シニシテ獨逸ノ言分ニノミ從フモノナリヤ

松岡外務大臣　蘇聯トノ國交調整ニ付テハ前内閣時代ニ中立條約ヲ提議セリ本大臣モ就任以來探リヲ入レテ見タルガ蘇側ハ前内閣ノ提議ヲ受諾スル條件トシテ「ボーツマス」條約ノ再檢討、北樺太利權ノ回收等殆ンド拒否的ノ條件ヲ附シテ受諾ヲ回答シ來レルガ如キ有樣ナリ依テ本大臣ハ蘇聯トノ國交調整ハ獨逸ヲ利用スル他ナシトノ結論ニ達シ本條約ニ對スル獨逸側ノ提議ヲ受諾セル次第

ナリ

南廣間官　米國ハ歐洲戰爭ニ參加セズト云フコトヲ「スローガン」ハ外務大臣ニ申シタト云フコトナルモ大統領選擧後ハ如何ナルコトニナルヤモ知レズ中立法ヲ改正シテ極力英國ヲ援助スルコトニナルヤモ圖ラレズ其ノ場合ハ米國ハ獨逸ヲ攻擊シタルモノトナルヤ否ヤ

松岡外務大臣　米國ノ措置ガ攻擊トナルヤ否ヤハ其ノ時ノ狀勢ニ依リ判斷スル他ナシ此ノ點ニ付テハ交渉中獨逸側ハ第三條ニ公然ト又ハ陰密ニ（openly or covertly）攻擊セラレタル云々ト云フコトニ致度シト申出タルニ對シ當方ヨリ陰密ニ攻擊スルトハ例ヘバ米國ガ英國ニ軍艦運搬ヲ讓渡スルガ如キコトヲモ含マルル旨アル

B-0059
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ニ依リ斯カル字句ハ削除シタシト主張シタル際先方ハ右字句ハ寧ロ日本側ノ利益ノ爲ニ挿入スルモノニシテ例ヘバ米國議會ガ新嘉坡ニ入港シタト云フガ如キ場合ヲ豫密ニ攻撃シタルモノト云フベク軍艦艦隊ノ如キハ入ラズト説明シタル經緯モアリ

南廟問官　獨逸側トノ話合ノ際ニ蘇聯ヲシテ援蔣政策ヲ抛棄セシムル爲ニ盡力スルト云フコトニ付念ヲ押サレタリヤ

松岡外務大臣　此ノ點ハ本大臣トシテモ充分考慮シ屢リ獨逸ヲシテ蘇聯ヲ通ジテ重慶ヲ和平ニ導カシムルコトヲ考ヘ居ルモノナルガ之ヲ遅早ニ云ヒ出スコトハ獨側ニ聞下ヲ見ラレ百害アリテ一利ナキ次第ナレバ最初八月初旬ニ「オット」大使ニ會見ノ際先方ヨリ斯カル趣旨ノ事ヲ申出シタル際モ日本ハ支那事變ハ獨力ニテ片附

(日本標準規格B5)

クル積リナリト申聞置キタル次第ナリ素ヨリ今後ハ本條約ヲ十二分ニ活用シテ日蘇間交渉整、支那事變收拾ノ促進ヲ圖ル覚悟ナリ

奈良廟問官　質問ナシ

荒木廟問官　ヨリ軍ノ素質、戦力、健康狀態殊ニ肺結核ノ豫防等ニ付質問アリ陸海軍大臣ヨリ各回答ス

松井廟問官　質問ナシ

菅原廟問官　五ノ點ニ付質問致度シ(一)ハ外務大臣ハ先程諮詢議定書ト云フコトヲ申サレタルガ諮詢議定書ヲ作成スルト云フ議ガアリシヤ(二)ハ本條約ト日獨伊防共協定トノ關係如何(三)ハ本條約ハ三國條約ナルガ獨伊ノ關係ハ極メテ緊密ナルヲ以テ條約ノ解釋等ニ付紛議ヲ生ジタル場合當ニ二對一トナル惧ナキヤ(四)ハ伊太利トノ關

(日本標準規格B5)

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

係ニ付テハ何等文書ノ上ニ殘ス必要ナキヤ(五)ハ對米戰爭勃發シタル場合ノ軍事上ノ覺悟ニ付テハ先程説明アリタルモ最モ心配ナルハ財政上ノ問題ナリ此ノ點ハ大藏大臣ニ於テモ充分ナル覺悟アリト存ズルガ如何

松岡外務大臣　(一)交渉中ニ諒解議定書作成ノ議出タルモ諒解議定書ノ内容ハ日本側ノ要求ノミヲ入ルル片務的ノモノトナリ之ヲ完全ニスル爲ニハ時日ヲ必要トスルノミナラズ伊太利ノ同意ヲモ取付タル必要アリタルニ依リ諒解議定書ノ作成ヲ避ケ本大臣ト在京獨逸大使トノ間ニ文書ヲ交換シテ諒解議定書ニ代フルコトトナリタル次第ナリ(二)防共協定ハ其ノ儘存置ス日本トシテハ防共ト云フ大方針ハ蘇聯トノ關係如何ニ拘ラズ之ヲ堅持シ行カザルベカラズト

(日本標準規格B5)

思考ス(三)獨伊ノ關係ハ成程緊密ナルモ伊太利ノ日本ニ對スル感情ハ獨逸以上ノモノアルヲ以テ御心配無用ト思考ス(四)別ニ文書ヲ要セザルモノト考フ伊太利大使ハ極メテ親日ニ伊太利政府ノ同意ヲ申出來レリ

河田大藏大臣　昔風顧問官ノ御質問ノ第五點ニ付テハ極力國民ノ負擔增加ヲ防ダ樣措置シ度キ所存ナリ

松浦顧問官　本條約ノ趣旨トスル所ハ日米關係ノ惡化ヲ防止スルニ在リ本官モ最モ之ヲ希望スル次第ナルガ不幸ニシテ最惡ノ場合ガ起リタル時ニ處スベキ準備ハ之ヲ充分整ヘ置カレ度シ

樞密院顧問官　最惡ノ場合ニ於ケル國内情勢食糧問題等ニ付質問アリ全體總説ヨリ回答ス

(日本標準規格B5)

B-0059

林

林顧問官　條約ノ主眼トスル點ハ對米關係ナルガ對蘇關係ハ此ノ點最モ慎重ニ考慮スル必要アリト存ズ外務大臣ノ御說明ニ依レバ對蘇關係ニ付樂觀的ノ考ヲ有シ居ラルルヤノ印象ヲ得タルガ本官ノ有スル情報ニ依レバ日蘇開戰ニ獨蘇開戰ノ關係ノ將來ニ付相當惡キ材料モアリ例ヘバ昨年獨蘇不可侵條約ガ締結セラレタル際「スターリン」ガ共產黨員ニ與ヘタル訓示ノ內容ニ付自分ノ有スル確實ナル情報ニ依レバ「スターリン」ハ蘇聯ガ今度獨逸ト提携シタルハ西歐赤化ノ一ノ手段ナリ又之ニ依リ決シテ專進政策ヲ拋棄シタルモノニアラズ時期至ラバ積極的ニ出ル積リナリト述ベタル由ナルガ之等ノ點ニ付テハ外務大臣ハ如何御考ナリヤ

松岡外務大臣　日蘇國交調整ガ面白キ容易ナリトハ自分モ考ヘ居ラズ

(日本標準規格B5)

唯獨逸ハ蘇聯ニ對シテ相當ノ壓力ヲ加ヘ得ルコトハ之ヲ認メザルベカラズ自分ノ有スル確實ナル情報ニ依レバ昨年蘇聯ガ何故ニ英佛ヲ離レテ獨逸ト提携スルニ至レリヤト云フニ其ノ動機ノ最モ重要ナル一ハ「ヒトラー」ハ「スターリン」ニ對シテ若シ獨逸側ノ要求ガ容レラレザレバ獨逸ハ蘇聯ヲ攻撃スベシト申傳ヘタリト云フコトナリ之等ヨリ判斷シテ日蘇國交調整ニ獨逸ヲ斡旋セシムルコトハ相當有效ナリト考ヘ居レリ

(日本標準規格B5)

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

深井顧問官　條約第三條ノ場合卽チ日米戰爭ノ場合ニ獨逸ハ如何ナル事事上ノ援助ヲ日本ニ與ヘ得ルヤ

松岡外務大臣　右ハ交渉ノ際ニモ論議セラレタルガ獨逸ハ第三條ノ事態發生以前ニ於テモ新兵器等ヲ日本ニ供給スベシト申シ居リ又日米戰爭勃發ノ場合ニハ大西洋方面ニ於テ米國ヲ牽制スルコトニナリ居レリ

東條陸軍大臣　蘇聯トノ該條ノ下ニ優秀ナル軍用器材ノ供給ヲ受タルコトガ最モ重要ナル援助ナリ

及川海軍大臣　大体陸軍ト同樣ナリ

深井顧問官　蘇聯ニ對スル關係ニ於テ獨逸ガ蘇聯ヲ牽制スルトハ如何ナル意味ナリヤ新カル事ハ獨蘇不可侵條約ニ正面ヨリ反スルモノニアラズヤ

東條陸軍大臣　條約上ハ其ノ通ナルガ實際ノ軍事上ノ論キヨリ云ヘバ獨逸ハ蘇聯ヲ牽制シ得ルモノナリ現ニ獨逸ハ對英作戰ヲ行ヒツツアルモ其ノ陸軍ノ大部分ヲ機械化部隊ト共ニ國內ニ保有シ居リ之ガ軍事的ニハ蘇聯ヲ牽制シ居ル次第ナリ

深井顧問官　外務大臣ハ日獨間ノ相互信賴ト云フコトヲ申サレタルガ獨逸側ノ昨年ノ獨蘇不可侵條約締結ノ際ノ態度ハ不信ト云フノ外ナシ昨年九月阿部陸軍外相ガ本院ニ於テ外交經過ヲ說明シタル際當時ノ澤田外務次官ガ平沼內閣ニ於テ獨蘇協定ガ日獨防共協定ノ趣旨ニ違反セル點ヲ指摘シテ獨逸ニ對シ抗議ヲ提出セル旨ヲ述ベタル處右抗議ノ結果ハ如何ナリ居ルヤ

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

松岡外務大臣　本大臣ノ問ヲ所ニ依レバ右抗議ガ果シテ先方ニ通ジ居ルヤ否ヤ疑ハシク思ラク御進側ヨリハ何等ノ回答ナカリシモノト思考ス

澤井顧問官　對外關係ニハ感情ヲ交ヘルコトハ禁物ニシテ外交ハ飽ク迄實的ニ行ハザルベカラズト思考スル處本條約ノ前文ニ万邦フシテ各其ノ所ヲ得シムルトアルガ「ヒトラー」ノ言ニ云フ所ハ國内强食ハ自然ノ法則ナルカノ如キ感情ヲ與フルガ御進側ハ果シテ此ノ前文ノ趣旨ヲ正當ニ理解シ居ルヤ

松岡外務大臣　我外交ノ使命ハ皇道ノ宣布ニ在リ利害得失ノミニ依リテ動クモノニアラズ國内强食ノ如キ思想ハ斷ジテ之ヲ排撃スベキモノト考フ

(日本標準規格B5)

澤井顧問官　日米戰爭ヲ不可避トスレバ此ノ際御進カ英米カ執レカニ外交ノ重點ヲ置カザルベカラズト云フコトハ理解出來ルモ本條約締結ノ結果ハ或ハ日米戰爭ヲ早メルコトトナルヤモ知レズ從來大臣ハ最惡ノ場合ニ於ケル軍需品、一般物資ノ缺乏思想ノ惡化等ニ對處シテ之ヲ切抜ケ得ル自信アリヤ否ヤ覺悟ヲ承リ度シ

近衛總理大臣　本條約ノ根本ノ考ヘ方ハ元ヨリ日米ノ衝突ヲ回避スルニ在リ然レ共下手ニ出レバ米國ヲツケ上ラセル丈ナルニ依リ敢然タル態度ヲ示ス必要アリト思考ス万一最惡ノ事態ヲ生ジタル場合ニハ政府ハ外交内政ヲ通ジテ非常ナル覺悟ヲ以テ施策セザルベカラズト考ヘ居レリ先日本大臣ガ參内本件ヲ上奏致シタル際天皇陛下ニ於カセラレテモ非常ナル御決心ヲ有シ遊バサルルコト

(日本標準規格B5)

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ヲ例ヒ変ニ遠慮虚飾ニ堕エズ本大臣トシテモ身命ヲ賭シテ本條約ノ達成ナキ迄用ヲ期シ度シト考ヘ居レリ

三上顧問官　外交上、経済上ニ付テハ大分質疑應答アリタルニ依リ自分ヨリハ條約其ノモノニ付疑問ノ點ヲ質シ度シ先形式ノ點ニ付テ玆ニ配布ノ書類ノ中何々ガ御諮詢ニナリ居ルヤ不明ナリ之等ノ文書ハ日本文ガ本文ナリヤ交換文書ノ方モ内容ヨリ見レバ國際約束ト思ハルルガ之ニ付テハ御諮詢ナキ次第ナリヤ

松岡外務大臣　御諮詢ニ相成リ居ルハ條約案ノミニテ他ハ參考ナリ條約ノ本文ハ日本文、佛蘭西文及伊太利文トナル筈ナルモ差當リ英文ノモノニ署名スルコトトナリ居レリ

松本條約局長　附属ノ交換文書ハ條約ト同様ノ效力ヲ有スル所謂交

(日本標準規格B5)

換公文トハ内容並ニ形式（例ヘバ署名ヲ附ス）ニ於テ異リ居リ所謂國際約束トハ認メ難キモ條約ノ解釋及松岡大臣ト「オット」大使トノ宣見ノ一致シタル點ヲ記載セルモノニシテ極メテ重要ナル文書ト認メテ參考トシテ上奏案ニ附屬セシメタル次第ナリ

三上顧問官　差當リ英文ニ署名スルト云フガ如キハ異例ニシテ斯カル手續ガ許サルルトハ思ハズ又交換文書ノ内容ハ國際約束ナルヲ以テ之亦御諮詢ノ客体トスベキモノト思考ス

原議長　之等形式ノ問題ニ付テハ後刻懇談會ヲ開催スルコトト致度シ

（等座委員會終了後直ニ府側懇談會ヲ開キタル結果條約案文ノミヲ御諮詢ノ客体トスルコト並ニ差當リ條約案日本文ノ

(日本標準規格B5)

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ミヲ特記シ英文ニ署名シ後日日清伊文トスリ代フル點ハ獨逸スルコトニ決定セル趣ナリ）

二上顧問官　條約第三條ニ歐洲戰爭又ハ日支紛爭ニ參入シ居ラザルトアルハ不正確ナル言現シ方ニテ歐洲戰爭又ハ日支紛爭ノ雙方ニ參入シ居ラザル一國ガ攻擊シタル場合ニハ第三條ガ發動スル樣ニモ取レル處其ノ點如何次ニ混合委員會トハ先程ノ外務大臣ノ說明ニ依レバ軍事ト經濟トノ混合ノ樣ニモ取レタルガ之ハ三國ノ混合ノ意味ニアラズヤ更ニ第五條ト第三條トヲ合セ考フルニ獨逸ハ蘇聯トノ間ニ不可侵條約ヲ有スルヲ以テ日本ガ蘇聯ヨリ攻擊ヲ受ケタル場合ニモ獨逸ハ蘇聯ヲ攻擊スルコト能ハズ之ニ反シテ獨逸ガ蘇聯ヨリ攻擊ヲ受ケタル場合ニハ日本ハ獨逸ヲ援助スル義務

外務省

（日本標準規格B5）

聯ヲ攻擊セザルベカラズ從テ片務的ノ性質ナラズヤ

松岡外務大臣　二上顧問官ノ御質問ノ第一點ハ用語ノ問題ニテ實際ノ解釋上ハ異樣ヲ生ズル余地ナシト思考ス第二點ハ勿論三國ノ混合委員會ノ意味ナリ第三條ガ第五條ノ結果日本ニ片務的ナリトノ議論ハ本條ノ政治的意味ヲ誤解シタルモノニシテ蘇聯ガ獨逸ヲ攻擊スルガ如キ場合ニハ獨蘇間ニ現存スル政治的狀態ハ重大ナル變革ヲ受クルモノニシテ斯カル場合ニ日本ノ處スル道ハ本條ノ性質ノ範圍外ナリト思考ス本條ノ趣旨ハ畢竟リ本條約ガ蘇聯ヲ目標トシ居ラザルコトヲ明示シタルモノナリ

眞野顧問官　質問ナシ

大島顧問官　大東亞ノ範圍ニ付テハ何等カ話合アリシヤ

外務省

（日本標準規格B5）

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

松岡外務大臣　御論議合アリシコトハ本日午前中説明シタル通ナリ

（日本標準規格B5）

小幡顧問官　日本ガ日支事變ヲ解決シ居ラザル此ノ際ニ當テ歐洲戰爭ニ米國ガ參戰シタル場合ニ獨伊ヲ援助スル義務ヲ負フコトハ極メテ重大ナル義務ヲ負フモノナルニ反シ日米ガ開戰スルト云フ可能性ハ少シト思ハル依テ本條約ハ極メテ片務的ナルモノトナラザルヤ

松岡外務大臣　米國ガ歐洲戰爭ニ參加スルヤ否ヤ又日米戰爭ガ勃發スルヤ否ヤハ雙方五分五分ノ可能性アリト見テ差支ナシ依テ片務的ノモノトハ思考セズ

竹越顧問官　本條約締結ノ結果最惡ノ場合ヲ生ジタルトキ獨逸ハ如何ナル援助ヲ日本ニ與ヘ得ルヤ又日本海軍ガ獨伊ヲ援助スル場合ニハ如何ナル援助ヲ爲スヤ

（日本標準規格B5）

B-0059

0145

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

松岡外務大臣　如何ナル援助ヲ與ヘ得ルヤ等ノ問題ハ混合委員會ニテ充分研究セザルベカラズ

鈴木審査委員長　本條約ノ成立ト否トニ拘ラズ日米戰爭ハ不可避ト考フルニ依リ米國海軍ノ擴張ヲ充分監視シテ之ニ相應スル準備ヲ怠ルベカラズ

及川海軍大臣　蓋シ遠戰卽決ヲ米國ニ當レバ充分勝算アリ將來ニ付テハ着々各敵ノ擴張計畫ヲ目論ミ居ル次第ナリ

石井顧問官　交換文書ノ最後ノモノヲ見ルニ我委任統治下ノ南洋群島ハ依然日本ノ屬地トスルモ之ニ對シ代償ヲ支拂フベキ旨記載シアリ之ニ對スル松岡大臣ノ說明ニ依レバ「ヴェルサイユ」條約ハ既ニ消滅シタルモノナルニ依リ南洋群島ハ日本ハ今尙軍事占領ヲ

(日本標準規格B5)

繼續セルモノニシテ從テ日本ハ獨逸ヨリ代償ヲ支拂ヒテ之ヲ讓受クル必要アリトノコトナル處委任統治地域ハ「ヴェルサイユ」條約ニ依リ五大國ニ讓渡セラレタルモノヲ日本ガ獲得シタルモノト見ルベク既ニ日本ノ屬地ナリト解スルヲ以テ正シト自分ハ思考スルニ依リ獨逸大使ノ口頭宣言ニハ自分ハ贊意ヲ表シ兼ヌ丈モ本問題ハ御諮詢外ノ問題ナルヲ以テ唯御參考迄ニ自分ノ意見ヲ述ブルニ止メ置キタシ

松岡外務大臣　立博士等有力ナル國際法學者ノ意見ハ委任統治ハ領土ノ讓渡ニ非ズト爲シ居レルガ故ニ法理論ヲ別トシテ實際政治ノ問題トシテハ一應獨逸ヨリ何等カノ方法ニテ割讓ヲ受タル方可ナリト云フコトガ自分ノ三年以來ノ考ナリ開タ所ニ依レバ三年位前

(日本標準規格B5)

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

249

ニ日本海軍ヨリ在伯林ノ海軍武官ヲ通ジテ獨側ニ對シ一定ノ代償ノ下ニ割讓方申出タル趣ナリ

石井顧問官　本問題ニ付テハ立博士トモ意見ヲ交換シタルコトアリ立博士ノ意見モ委任統治ガ領土ノ割讓ニアラズト云フ丈デ獨逸ガ五大國ニ讓渡シタル點ニ付テハ爭ナキ樣思考ス從テ今更日本ガ獨逸ヨリ代償ヲ支拂ヒテ割讓ヲ受クルガ如キハ本官ノ同意シ難キ所ナリ

三土顧問官　今朝來ノ質疑應答ヲ聞イテ居レバ米國トノ戰爭トナリタル場合ノコトヲ主トシテ論議セラレ居ル樣ナルモ本條約締結後直ニ米國ノ我國ニ對スル經濟壓迫ハ一層加重セラルルモノト愚考ス其ノ場合ニ於ケル我國民生活ノ問題ハ重大ナル問題ナリト愚ハ

外務省

(日本標準規格B5)

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

250

ルル處之ニ付テハ充分ナル用意出來居レリヤ又日本人ハ兎角此ノ種ノ條約ガ出來ルト獨逸カブレトナリ反米運動等ヲ試ムルモノ出デ來ル惧アリ斯カル點ハ嚴ニ取締リ頂キタシ

星野企畫院總裁　國民生活ノ問題ハ政府トシテ最モ關心ヲ有シ居リ之ガ對策ニ付テハ高度國防國家ノ期シタシ

近衛内閣總理大臣　排米運動ヲ取締ルコトハ極メテ同感ナレバ嚴重取締ハ

實施致シタシト

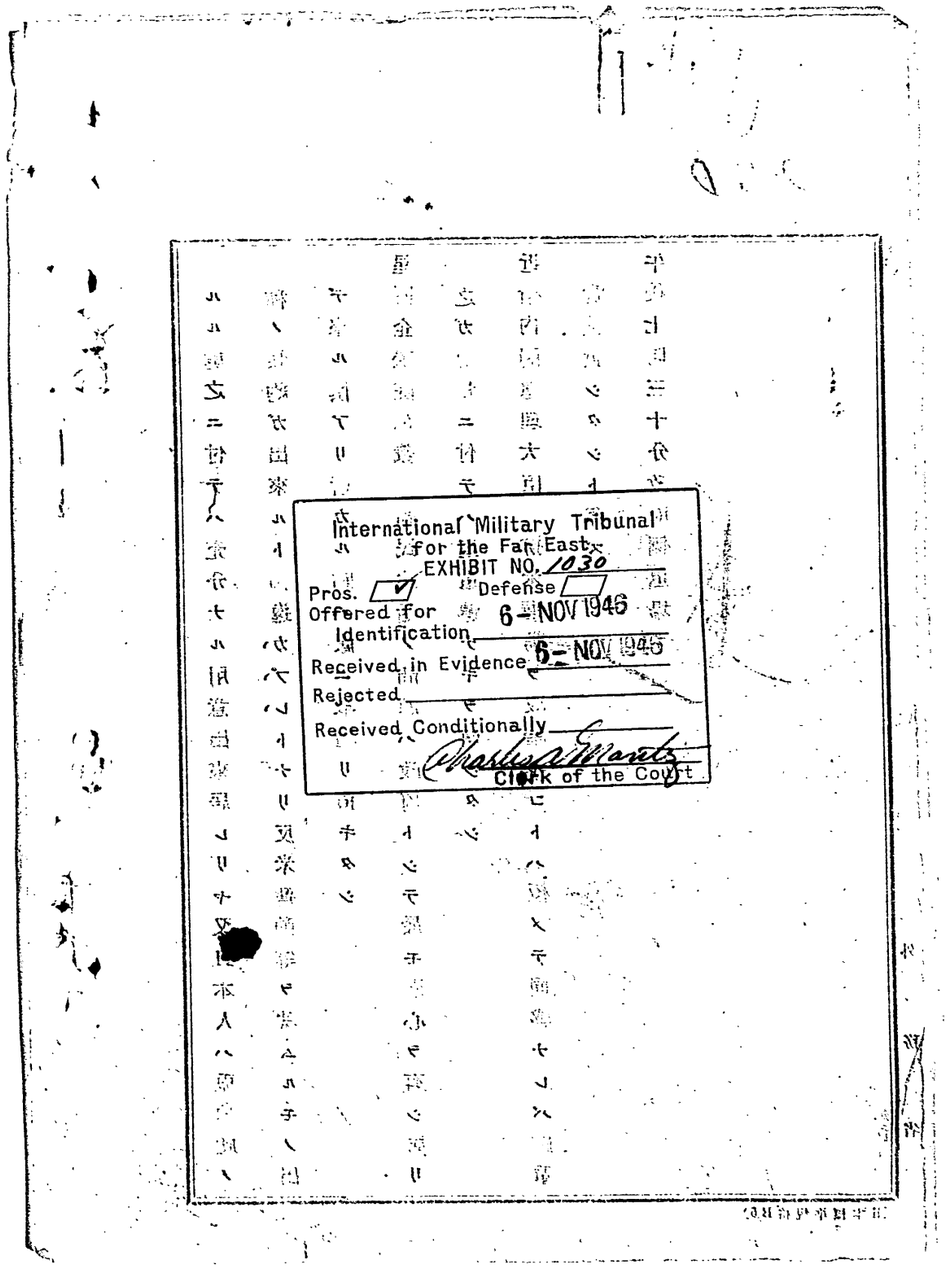
午後七時三十分政府側退場

外務省

(日本標準規格B5)

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



International Military Tribunal
for the Far East
EXHIBIT NO. 1030
Pros. ✓ Defense
Offered for Identification 6 - NOV 1946
Received in Evidence 6 - NOV 1946
Rejected
Received Conditionally
Clerk of the Court

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

(Page 1)

電信寫

總番號	符號	昭和 年 月 日 時 分 發	主管
		昭和 年 月 日 時 分 着	

枢密院

一、本同盟締結ノ結果米國ノ対日経済圧迫極端ニ強化セラルルニ至ルコトナキヤ、
其ノ場合ニ於ケル対策如何

二、最悪ノ場合（対米戦争開始ノ場合）ニ處スベキ準備如何

三、其ノ場合アルヲ覚悟セザルベカラズ、而シテ之ガ対策ニ付テハ本條約締結ニ
依ル日本ノ國際的立場ノ強化ヲ利用シ従来米國ニ求メ居リタル國防資
源ヲ南洋其他ヨリ獲得スル為外交的経済的及軍事的施策ヲ
為スノ要アルヲ認メ居リ本件決定ニ当リテハ此点ニ最モ重キヲ置キ慎
重講究セリ

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第一　続内

日独伊三國ノ提携カ支那事変處理ニ及ホス影響如何

陸軍

九月十六日

電信寫

號番總	符號	昭和十五年九月十六日	時分	發主
		昭和　年　月　日	時　分	着宛

日独伊軍事同盟ニ関スル御前会議ニ於テ海軍統帥部ヨリ政府ニ対スル左ノ問事項

一、本同盟ノ成立ニ依リ日蘇國交調整ニ寄與スル程度如何

二、本同盟ノ結成ニ依リ英米トノ貿易関係ハ一層悪化シ最悪ノ場合ハ依存物資ノ取得愈々至難ト認ナラレ又日米戦争ハ持久戦トナルノ公算大ナルガ支那事変ニ依ル國力消耗ノ現狀ニ鑑ミ國力持続ノ見透益々之ガ対策如何

三、本同盟締結ニ依リ此ノ際更ニ海軍ノ対米戦備及軍備ヲ強化促進スルコト喫緊ノ要事タリ

本件ハ万難ヲ排シ政府ノ眞剣ナ協力ヲ得ルニ非ズンバ実現不可能ナン

處之ニ対スル所信如何

B-0059

0051

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

四、若シ米國ノ欧戰參加ニ依リ帝國ノ參戰ヲ餘儀ナクセラルル場合ニ於テモ其ノ開戰時機ハ自主的ニ之ヲ決定スルノ要アル處之ニ対スル措置如何

（終）

（海）

電信寫　番號　符號　昭和年月日時分發　昭和年月日時分着　主管

抑々現狀ニ於テ重慶政府ノ抗日ヲ最モ激励シ居ルモノハ米國ナリ強固ナル日独伊三國ノ提携ハ現下日本トシテ採リ得ル限ニ於テ最モ有力ナル米國牽制ノ手段ナリ而シテ米國牽制ノ度ヲ高メル丈ケ支那事変ノ處理ハヨリヨク可能ナラシムル筈ニシテ一面独伊等ニ独逸ノ力ヲ消極又ハ積極ニ利用シ、更ニ独伊等ニ独逸ノ斡旋ニヨリ日蘇ノ接近ヲ一層可能ナラシム之ニヨリ支那事変處理ニ更ニ邁進スルコトヲ得ルシ

一、本同盟成立ニヨリ独伊等ニ独逸ハ日蘇國交ノ調整ニ付キ相当ノ自信ヲ以テ斡旋セントヲ期シ居レリ現ニ見ルガ如キ独蘇関係ニ鑑ミ独逸ノ斡旋アルト否トハ日蘇國交調整ニ付キ相当大キナル難易ノ差生ズルヤキコト疑ヲ容レズ

四、皇國ノ參戰ヲ余儀セラルル場合ニ於テ其ノ開戰時期ニ付テハ事実

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

Page 6

上先ヅ軍事当局ニ於テ意見ヲ定メ政府ハ之ニ基キ諸般ノ事情ヲモ参酌シテ意見ヲ定メタル上更ニ独伊両國政府ト意見ノ交換ヲ行ヒ其ノ結期ヲ定ムルコトトナリ。此点ニ関シ国ヨリ皇國ノ自主的立場ハ失フコトナシ

International Military Tribunal
for the Far East
EXHIBIT NO. 557
Defense
Offered for Identification 25 SEP 1946
Received in Evidence 25 SEP 1946
Rejected
Received Conditionally
Charles Montgomery
Clerk of the Court

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

極秘

日獨伊三國條約ニ關スル樞密院特別委員會議事錄

（松本條約局長手記）

昭和十五年九月二十六日午前十一時二十分開會

當中東三ノ間ニ於テ

出席者

樞密院側　原樞密院議長（審査委員長）

鈴木樞密院副議長

欠席ノ金子顧問官及田中顧問官ヲ除キ全顧問官等

全委員トシテ出席

政府側　近衛內閣總理大臣

松岡外務大臣

東條陸軍大臣

及川海軍大臣

河田大藏大臣

星野企畫院總裁

他ニ說明員トシテ

村瀨法制局長官、森山第二部長

松本條約局長

武藤軍務局長

阿部軍務局長

原口爲替局長、松隈銀行局長

辻監理局長

議事

一、委員長開會ヲ宣シ書記官ヲシテ條約案文ヲ朗讀セシム

一、近衛總理大臣別紙甲號ノ通挨拶ヲ述ブ

外務省

（日本標準規格B5）

外務省

（日本標準規格B5）

B-0059

0154

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

一、松岡外務大臣別紙乙號ノ通説明ス

一、席順ニ依リ質問ニ答ヘル

河合顧問官　本官ハ本案ノ趣旨ヲ完全ニ了解セリ本官トシテハ豫テヨリ日獨伊同盟ノ成立ヲ希望シ居リタルモノニシテ松岡大臣就任以來其ノ速ナル實現ヲ期待シ一部ニ松岡大臣ノ活動ヲ手緩シトスル論モ耳ニシタルガ今回遂ニ之ガ成立ヲ見タルハ欣快ニ堪エザル所ナリ只今ノ松岡大臣ノ説明ニ依レバ伊太利ノ態度ハ明ナラザル處此ノ點ヲ承リ度シ

松岡大臣　本件話合ハ先程モ述ベタル通リ日獨間ニ始メラレタルモノニシテ獨側ハ最初ヨリ伊太利ノ方ハ引受ケ居レリト申述ベ居リタリ昨日伊太利大使ハ本大臣ヲ訪問シテ伊太利ハ本件交渉ノ一

(日本標準規格B5)

切ヲ獨側ニ委任シ日獨間ニ纏リタル條約案ニ伊側ハ全幅的ノ賛意ヲ表スル旨本國政府ノ訓令ニ依リ申入レ來リタル次第ナリ

河合顧問官　附屬ノ交換文書ヲ一覽スルニ日獨間ノ關係ノミヲ述ベ居ル處伊太利ヨリモ同樣ノモノヲ取付クル必要ナキヤ

松岡大臣　實ハ我方トシテハ凡テ獨逸ニ重點ヲ置キ伊太利側ヲ附隨的ノモノト考ヘテ差支ナシト思考ス從テ交換文書ノ中ニ於テ獨逸外務大臣ガ伊太利ノ援助及協力ヲ必要トスル場合ニハ伊太利ハ勿論獨逸及日本ト同調スベキコトヲ絶對ニ信ズル旨ヲ掲ゲシムルニ止メタル次第ナリ

河合顧問官　條約第三條ハ最モ重要ト思考ス本官ハ日米開戰ヲ信ズルモノニ非ザルモ最悪ノ場合ヲ考慮シテ軍部大臣ハ何等敗ケヲ

(日本標準規格B5)

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

取ラザル丈ノ覚悟アリト信ズルガ之ニ就テ何等カ本官等ニ安心ヲ與フル様御説明ヲ承リ度シ又蘇聯ガ日本ニ向テ事ヲ起サザルモノトモ限ラズ此ノ場合獨逸ハ如何ナル態度ヲ執ルモノト考ヘラルルヤ

東條陸軍大臣　本大臣ハ主トシテ陸軍ノ見地ヨリ御回答ス最悪ノ事態ニ陥リタル際對米作戦ニ要スル陸軍ノ兵力ハ極一部分ヲ使用スルニ過ギズ其ノ點ハ御懸念ハ無用ト思考ス然シ乍ラ對米作戦ハ結局對蘇作戦ヲ考慮セザレバ完全ナリト云ヒ難シ依テ日蘇ノ國交調整ハ極メテ重要ナル問題ニシテ之ガ有效ニ完成スレバ軍事的準備ハ餘程楽ニナルモノト考ヘ得ル處蘇聯ノ性格上日本トシテ準備ヲ怠ル譯ニハ參ラズト思考ス尚支那事變ニ付テハ本條約ヲ有效ニ

活用スルコトニ依リ最悪ノ事態發生前事變ノ解決ヲ圖リ度キ考ナリ

及川海軍大臣　現存艦隊ノ戦備ハ完成シ居レルヲ以テ決シテ米國ニ敗ケハ取ラザルモ戦爭ガ長期ニ亘ル場合ニハ米國ノ海軍充實計畫ノ實現ニ伴ヒ我方トシテモ充分ノ準備ヲ爲スノ要アリ此ノ點ニ付テハ海軍トシテモ萬全ノ策ヲ講ジ居ル次第ナリ

河合顧問官　本官ノ最モ心配スル所ハ物資ノ關係ナルガ一体長期戦トナリタル場合執ノ位ノ間ハ差支ナキ御考ナリヤ

星野企畫院總裁　昨日御説明申上ゲタル通リ（企畫院總裁ハ其ノ前日樞密院定例參集ニ於テ物資動員計畫ニ付詳細ナル説明ヲ行ヘリ）數年前ヨリ我國ハ諸物資ノ自給自足ヲ覚悟シテ準備シ來レル

B-0059
0155
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ガ二十一億ノ輸入ノ中十九億ハ英米ニ依存セル有様ナルガ故ニ經
濟上ノ壓迫強化ノ場合條約第三條發動ノ場合ヲ考ヘテ萬全ノ策ヲ
講ズル必要アリ鐵ニ付テ云ヘバ本年ノ生産高ハ五百二十萬噸ノ見
込ナルガ最悪ノ場合ニモ四百萬噸ハ生産シ得ル見込ナリ現在軍備
竝ニ軍需ニ使用セルモノ百五十萬噸其ノ他ハ生産力擴充竝ニ民需
官需ニ充當セルモノナルガ屑鐵ガ來ラザル場合又ハ鐵材ノ輸入ナ
キ場合ヲ考慮シテ生産力擴充ニ手加減ヲ加ヘ民需官需ヲ制限スレ
バ左程窮境ニハ立タザル見込ナリ非鐵金屬ニ付テハ鐵ノ様ニハ參
ラヌモ世界中ヨリ目下蒐集ニ務メ居ルヲ以テ之亦左程心配ハ要ラ
ヌト思考ス最モ重大ナルハ石油ナルガ現在ハ多量ヲ米國ニ依存シ
居リ殊ニ航空機用揮發油ハ殆ンド全部ヲ米國ヨリノ輸入ニ仰ギ居

(日本標準規格B5)

ル處國内ノ増産ヲ圖ルト共ニ米國以外ヨリ獲得スル方法ヲ講ゼザ
ルベカラズ最近航空油ニ付テハ相當ノ「ストック」ヲ得タリ然レ
共對米戰爭長期ニ亘ル場合鐵其ノ他ノ金屬類ノ場合トハ異リ日滿
支三國ノ中ノミニテハ自足出來ザルニ依リ出來得ル限リ速ニ蘭印
又ハ北樺太等ヨリ石油獲得權ヲ確保スル必要アリ此ノ點ニ付テハ
今回ノ獨逸側トノ話合ニ於テモ問題トナリタル點ナリ又目下蘭印
ニ於テ平和裡ニ石油ヲ獲得スル交渉ガ行ハレ居ルモノト御了解願
度シ

河合顧問官　昨日ノ御話ノ時ニモ石油ニ付テハ軍部ニ於テモ相當
ノ準備アリト云フ意味ノコトヲ申サレタルガ軍部大臣ヨリモ御答
願度シ

(日本標準規格B5)

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

及川海軍大臣　海軍トシテハ相當長期ノ準備ヲ有ス又人造石油ニ付テモ目下施策中ナリ

東條陸軍大臣　陸軍ノ資材ニ付テモ相當ノ期間ハ堪エ得ル様準備アリ非常ナル長期戰トナレバ航空機用、機械化部隊用ノ油ニ付テ考慮スル必要アリ

右ニテ一旦休會

午後一時十分再開

石井顧問官　第三條ニ依リ一國ガ攻撃セラルルトキハ直ニ參戰義務ヲ生ズルモノナリヤ何等カ此ノ點ニ付話合アリタルヤ

松岡外務大臣　交換文書中ニ「一締約國ガ條約第三條ノ意義ニ於テ攻撃セラレタリヤ否ヤハ三締約國間ノ協議ニ依リ決定セラルベキコト勿論トス」（在京獨逸大使來翰）トアルハ御質問ノ點ヲ明確ナラシムル爲本大臣ノ要求ニ依リ挿入シタルモノニシテ攻撃アリタルヤ否ヤニ付テ協議シ協議纏マレバ自働的ニ共同シテ戰ハザルベカラザル處何時如何ナル方法ニ依リ援助スルヤハ締約國各々自主的ニ決定シテ協議スルコトトナル次第ナリ

石井顧問官　條文中ニ「直ニ」ト云フ字句モナキニ依リ外務大臣ノ説明ハ自分モ同感ナリ尚第四條ノ混合專門委員會ハ通常同盟條約ニアル軍事專門家間ノ協議ト解シ居リタルガ先程ノ外務大臣ノ説明ニ依レバ經濟的ノ問題モ右委員會ニ於テ協議スルモノノ如キ處此ノ點ニ付御説明ヲ承リ度シ

松岡外務大臣　本件ハ最初ハ條約ノ附屬秘密議定書中ニ規定スル

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

案ニナリ居リタリ同案ニ依レバ陸海軍ノ混合委員會ヲ東京ニ一、伯林又ハ羅馬ニ一ヲ設ケ其ノ他經濟委員會ヲ設クルコトトナリ居レリ然レ共秘密議定書ハ作成セザルコトトナリ此ノ點ハ條約成立後兩國間ニ協議シテ決定致度キ處經濟問題ヲ扱フ委員會ハ必要ト思考スルニ依リ設置スルコトトナルベシト考ヘ居レリ

石井顧問官　本條約ニハ同盟條約ニ殆ンド必ズ存在スル單獨不媾和ニ關スル規定ナキ處右ハ何等カ特殊ノ思惑アリタル次第ナリヤ

松岡外務大臣　本件ハ一切話出ザリキ實ハ本大臣トシテハ先方ガ云ヒ出セバ之ヲ挿入スルモ差支ナシト思考シタルガ先方ガ之ニ關レザル場合ニハ之ヲ設ケザル方可ナリト思ヒタリ何トナレバ本條約ハ本大臣ノ考ニテハ戰爭ヲ防止スルコトガ目的ニシテ戰爭スル

(日本標準規格B5)

コトガ目的ニアラザルニ依リ開戰ヲ豫想スル單獨不媾和ノ規定ヲ設ケザル方可ナリト思ヒタルコトガ一ノ理由ニシテ、他ノ理由ハ萬一戰爭ガ始マレバ此ノ點ハ戰爭初期ニ互ニ約束スレバ宜シト考ヘタルヲ以テ之ガ規定方ヲ申出ザリシ次第ナリ

石井顧問官　御意見御尤ト存ズ尙條約第一條ニ歐洲ニ於ケル新秩序ト云フコトガアル處何ヲ以テ歐洲ノ新秩序ト云フヤ判然タラシメザレバ日本ノ義務ガ判然タリ得ザルニ非ズヤ何カ此ノ點ニ付話合アリシヤ

松岡外務大臣　御尤ノ質問ト存ズルモ本大臣トシテハ新秩序ノ意義ハ前文ニテ充分現ハレ居レリト思考ス前文ハ當方ノ提案ニシテ獨逸側ハ一字ノ修正ヲモ申出ザリシモノナリ

(日本標準規格B5)

B-0059

有馬顧問官　本條約ニ依リ日米戰爭ヲ避ケ度キハ本官モ政府ト同感ナルガ日米ハ宿命的ニ戰ハザルベカラザルモノナラバ今日ガ最モ良キ時期ト考フ但シ最モ心配ナルハ石油ノ缺乏ナリ海軍大臣ハ相當ノ準備アリト云ハレタルガ日米開戰スレバ一年、二年デ終局ニ達スルモノトハ思ハレズ殊ニ今日ノ戰爭ニ於テハ極メテ多量ノ石油ヲ使用セザルベカラザル處人造石油等モ果シテ急場ノ間ニ合フモノナリヤ心配ニ堪エザル次第ナルニ付此ノ點重ネテ海軍大臣ヨリ御回答ヲ得度シ

及川海軍大臣　人造石油ハ未ダ着手シタル許リニテ仲々急場ノ間ニ合フトハ申サレズ依テ平和的手段ニ依テ蘭印又ハ北樺太ヨリ獲得スル他ナク之ガ成功スレバ相當有望ナリ從テ蘇聯トノ國交調整

外務省

(日本標準規格B5)

ハ此ノ點ヨリ云フモ重要ナリト存ズ又一方海軍トシテハ長期戰ニナレバ油ノ使ヒ延シモ考ヘザルヲ得ズ

有馬顧問官　ハイ、オクタン價ノ石油ハ充分間ニ合フ次第ナリヤ

及川海軍大臣　ハイ、オクタン價ノ石油ハ近年海軍ニテモ專門ノ研究機關ヲ設ケ海軍獨自ノ方法ニテ製造シ居レリ又相當ノ準備モアル次第ナリ

豊田顧問官　條約第三條ノ文字上ヨリ見レバ現ニ歐洲戰爭又ハ日支紛爭ニ參入シ居ラザル一國ノ中ニハ蘇聯モ含マルルモノト考フルガ蘇聯トノ關係ハ如何ナルモノナリヤ獨逸ト蘇聯トハ何等カ話合アリタル次第ナリヤ

松岡外務大臣　其ノ疑問ヲ避クル爲第五條ヲ設ケタル次第ナリ尚

外務省

(日本標準規格B5)

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

本大臣ガ「スターマー」ニ對シテ蘇聯トノ間ニ何カ本條約ニ付話アリタルヤト訊ネタルニ對シ「スターマー」ハ否定的ノ回答ヲ爲シ居リタルガ本大臣ノ想像スル所ニテハ「スターマー」ハ「モスコー」通過ノ際蘇側ト何等カ話ヲ爲シ居ルモノト考ヘ居レリ其ノ證據ト思ハルル一ノ事實アルカ「スターマー」ハ八月二十三日ニ伯林ヲ出發セル處同日「リッベントロープ」外相ハ來栖大使トノ會見ニ於テ何等本件ニ言及セザリシガ「スターマー」ハ二十四日ニ東郷大使ニ會見シタル際ニハ獨逸側ハ日本ト政治條約ヲ締結スル積ナル旨ヲ話シ居ルヲ以テ其ノ間「スターマー」ハ蘇聯當局ト何カ話ヲ爲セルモノト思考セラル

窪田顧問官　米蘇接近ノ噂モ聞ク處本條約ハ之ヲ促進スルコトトナル惧ナキヤ此ノ點ハ如何

松岡外務大臣　米蘇接近ニ付テハ外務省ニ於テモ各方面注意シテ眞相ノ把握ニ務メ居ル處今日迄確實ト認メラルル情報ニハ接シ居ラズ本大臣ハ未ダ具体的ノ何物モナシト考ヘ居レリ尚「スターマー」ハ日蘇ノ國交調整ノ成功ニ付テハ極メテ明白ニ其ノ可能性ヲ述ベ獨逸ノ斡旋ヲ申出タル次第ニシテ此ノ點ハ交換文書ニモ記載サレタル通ナリ

石塚顧問官　條約ノ條文トシテハ本官ニ於テ異存ナシ但シ獨逸トノ關係ニ付テハ過去ノ實績ニ照シ百「パーセント」信用ヲ置ク譯ニ行カズ防共協定及文化協定締結ノ際ニモ特殊ノ事項ニ付テハ兎モ角全面的ノ提携ハ不可ナリトノ議論アリキ此ノ點ハ政府ニ於テ

B-0059
0061
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

モ充分御留意相成テ條約實施ニ遺憾ナキヲ期セラレ度シ

清水顧問官　本條約ノ調印者ハ誰ナリヤ

松岡外務大臣　「リッベントロープ」「チアノ」及來栖大使ノ三名ナリ

清水顧問官　本條約ハ署名ト同時ニ實施セラルルコトトナリ居ル處之ハ憲法上差支ナシト思ハルルヤ

松岡外務大臣　斯クノ如キ條約ハ前例モ多々アリ調印前ニ樞密院ニ御諮詢相成リ御裁可アルモノナルニ依リ憲法上ノ問題ハ生ズル惧ナシ

清水顧問官　聞ク所ニ依レバ重慶ニハ未ダ獨逸人ノ技師ガ數名居ルト云フガ眞實ナリヤ

東條陸軍大臣　斯カル情報ハアルモ眞相不明ナリ

清水顧問官　我南洋委任統治地域ニ對シテモ何等カノ代償ヲ支拂フコトトナリ居ル處如何ナル譯ナリヤ

松岡外務大臣　此ノ點ニ付テハ獨逸側ハ国下委任統治トナリ居ル舊獨領ハ全部返還ヲ受クル建前トナリ居リ與國タル日本ノミガ之ヲ返還セザルコトヲ認ムルハ原則ノ問題トシテ受諾シ得ズ從テ代償ヲ得テ日本ニ譲渡シタル形式ヲ採リ度シト主張セリ最初ハ相當ナル代償 adequate ト云フ字句ナリシヲ本大臣ノ主張ニ依リ in a way ト云フコトニシタルモノニシテ先方ハ此ノ代償ハ全然「ノミナル」ノモノニテ可ナリ例ヘバ珈琲六袋ト云フ例モアリト云ヒ居リタル位ニテ極メテ輕キ意味ナリ

B-0059
0 162
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

清水顧問官　本官ノ考ニテハ委任統治ハ今更獨逸ヨリ讓渡ヲ受クル必要ナキモノト思ハル

松岡外務大臣　自分ノ考フル所ニ於テハ立博士其ノ他有力ナル國際法學者ノ說ノ如ク領土ノ割讓ハナカリシモノト見ルノガ正シト思考ス從テ本大臣ハ三年以來「ヴェルサイユ」條約ヲ獨逸ガ實際上破棄シタル以上日本ノ委任統治ハ軍事占領ノ繼續ト見ルノガ正シク從テ獨逸ヨリ讓渡ヲ受ケテ事實ヲ明瞭ニスル必要アリト考ヘ居レリ

南顧問官　伊太利ハ本條約ニ何時承認ヲ與ヘタリヤ

松岡外務大臣　先程モ御答シタル通リ伊太利ハ二十五日ニ在京大使ヲ本大臣ノ許ニ派遣シテ同意ヲ表明シ來レリ其ノ前ニ「リッベントロープ」外相ガ羅馬ニ於テ伊太利側ノ同意ヲ取付ケタルモノナリ

南顧問官　然ラバ十九日ノ御前會議ノ際ニハ伊太利ハ同意スルモノトモセザルモノトモ不明ナリシニ本件ヲ御前會議ニ附シ御裁可ヲ仰ギタルハ時期頗ル尙早ニアラズヤ

松岡外務大臣　獨逸側ハ最初ヨリ伊太利ノ同意ヲ確實ニ得ラルルコトヲ繰返シ述ベ居リタルノミナラズ御前會議ニテ審議シタルハ日獨間ニ一應纏リタル案ニ依リ日獨伊三國間ニ條約ヲ締結スル方針ヲ附議シタルモノナルニ依リ何等差支ナカリシモノト考フ

B-0059
0169
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

雨願問官　大東亞ノ範圍ニ付テハ明白ナルコトヲ決メ居ラザルニアラズヤ

松岡外務大臣　交渉ニ當リ隨時話ヲ爲シ記錄ニ留メタリ

雨願問官　日英間ニ紛爭發生シタル場合ニ付特ニ交換文書アルハ如何ナル理由ナリヤ

松岡外務大臣　英國ハ既ニ歐洲戰爭ニ參戰シ居ルヲ以テ本條約第三條ノ場合ニ當嵌ラザルモ日本トシテハ日英戰爭ガ絶對ニナシトハ云ヒ得ザルニ依リ特ニ此ノ點ヲ獨逸側ノ好マザリシニ拘ラズ明確ニセシメタリ

雨願問官　本條約ハ日本ヨリ言出シタルモノナリヤ獨逸ヨリ言出シタルモノナリヤ

外務省

（日本標準規格B5）

松岡外務大臣　獨逸ヨリ言出シタルモノナリ

雨願問官　獨逸ガ斯カル提議ヲ爲スニ至レルハ對英作戰ニ失敗シタル爲ニアラズヤ

松岡外務大臣　對英作戰ノ長引キタルコトモ一ノ理由ナルヤモ知レザルモ右ガ全部ニハ非ズ數十年ノ長キ眼デ見テ獨米ノ葛藤遂ケ難シト見タル爲ナラント思ハル

雨願問官　本條約ニ依リ米國ヲ牽制スルコトハ結構ナルガ米獨提携ノ危險絶對ニナキヤ

松岡外務大臣　米獨提携ノ可能性モ絶對ニナシトハ思ハレズ然レ共日米關係ノ改善ニハ獨系米人ノ米國ニ於ケル勢力ヲ無視出來ザルニ依リ此ノ點ニ於テモ本條約ノ價値アリト思考ス

外務省

（日本標準規格B5）

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

南願問官　石油ノ問題ハ先程ノ各大臣ノ問答ヲ承ルモ盤ヲ隔テテ物ヲ聞クガ如ク一寸モ安心出來ズ今少シ明瞭ナルコトヲ承リ安心セシメラレ度シ

企畫院總裁、陸海軍各大臣　先程モ御答シタル通リ陸海ハ相當貯蔵アリ海外ヨリノ平和的獲得モ有望ナリト雖合、有馬南願問官ニ對スル同答ヲ繰返シ述ブ

南願問官　一方ニ於テ日支事變ガ繼續シ一方ニ於テ日米戰爭ガ勃發セバ日本ノ財政ハ如何ナルヤ大蔵大臣ニ承リ度シ

河田大蔵大臣　財政ガ窮屈ニナルコトハ勿論ナリ結局國民ノ貯蓄ヲ增進シ政費節約ヲ圖ル他ナシ

南願問官　次ニ日蘇關係ニ付承リ度シ萬一日米戰爭ガ起リタル場合

(日本標準規格B5)

蘇聯ハ恰モ歐洲戰爭前ニ英佛ト獨トヨリ引張凧トナリタルガ如ク日米兩國ヨリ提携ノ手ヲ延ス延スコトトナルベシト思ハル故ニ日米關係ヲ考フルニハ先ヅ蘇聯トノ國交調整ヲ行ヒテ後此ノ條約ノ交渉ヲ爲スコトハ出來ザリシモノナリヤ何故ニ蘇聯トノ交渉ヲ後廻シニシテ獨逸ノ盲分ニノミ從フモノナリヤ

松岡外務大臣　蘇聯トノ國交調整ニ付テハ前内閣時代ニ中立條約ヲ提議セリ本大臣モ就任以來探リヲ入レテ見タルガ蘇側ハ前内閣ノ提議ヲ受諾スル條件トシテ「ポーツマス」條約ノ再檢討、北樺太利權ノ回收等殆ンド拒否的ノ條件ヲ附シテ受諾ヲ回答シ來レルガ如キ有樣ナリ依テ本大臣ハ蘇聯トノ國交調整ハ獨逸ヲ利用スル他ナシトノ結論ニ達シ本條約ニ對スル獨逸側ノ提議ヲ受諾セル次

(日本標準規格B5)

B-0059

0165

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第ナリ

南顧問官　米國ハ歐洲戰爭ニ參加セズト云フコトヲ「スターマー」ハ外務大臣ニ申シタト云フコトナルモ大統領選擧後ハ如何ナルコトニナルヤモ知レズ中立法ヲ改正シテ極力英國ヲ援助スルコトニナルヤモ圖ラレズ其ノ場合ハ米國ハ獨逸ヲ攻擊シタルモノトナルヤ否ヤ

松岡外務大臣　米國ノ指嗾ガ攻擊トナルヤ否ヤハ其ノ時ノ狀勢ニ依リ判斷スル他ナシ此ノ點ニ付テハ交渉中獨逸側ハ第三條ニ公然ト又ハ陰密ニ (openly or covertly) 攻擊セラレタル云々ト云フコトニ致度シト申出タルニ對シ當方ヨリ陰密ニ攻擊スルトハ例ヘバ米國ガ英國ニ貸遞艦ヲ讓渡スルガ如キコトヲモ含マルル惧アルニ依リ斯カル字句ハ削除シタシト主張シタル際先方ハ右字句ハ專ロ日本側ノ利益ノ爲ニ挿入スルモノニシテ例ヘバ米國艦隊ガ新嘉坡ニ入港シタト云フガ如キ場合ヲ陰密ニ攻擊シタルモノト云フベク貸遞艦讓渡ノ如キハ入ラズト說明シタル經緯モアリ

南顧問官　獨逸側トノ話合ノ際ニ蘇聯ヲシテ援蔣政策ヲ拋棄セシムル爲ニ盡力スルト云フコトニ付念ヲ押サレタリヤ

松岡外務大臣　此ノ點ハ本大臣トシテモ充分考慮シ居リ獨逸ヲシテ蘇聯ヲ通ジテ重慶ヲ和平ニ導カシムルコトヲ考ヘ居ルモノナルガ之ヲ過早ニ云ヒ出スコトハ獨側ニ脚下ヲ見ラレ百害アリテ一利ナキ次第ナレバ最初八月初旬ニ「オット」大使ニ會見ノ際先方ヨリ斯カル趣旨ノ事ヲ申出シタル際モ日本ハ支那事變ハ獨力ニテ片

(日本標準規格B5)

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

附クル積リナリト申聞置キタル次第ナリ素ヨリ今後ハ本條約ヲ十二分ニ活用シテ日蘇國交調整、支那事變收拾ノ促進ヲ圖ル覺悟ナリ

奈良顧問官　質問ナシ

荒木顧問官ヨリ軍ノ素質、體力、健康狀態殊ニ肺結核ノ豫防等ニ付質問アリ海軍大臣ヨリ各問答ス

松井顧問官　質問ナシ

菅原顧問官　五ノ點ニ付質問致度シ(一)ハ外務大臣ハ先程秘密議定書ト云フコトヲ申サレタルガ秘密議定書ヲ作成スルト云フ議ガアリシヤ(二)ハ本條約ト日獨伊防共協定トノ關係如何(三)ハ本條約ハ三國條約ナルガ獨伊ノ關係ハ極メテ緊密ナルヲ以テ條約ノ解釋等ニ

(日本標準規格B5)

付紛議ヲ生ジタル場合常ニ二對一トナル懼ナキヤ(四)ハ伊太利トノ關係ニ付テハ何等文書ノ上ニ殘ス必要ナキヤ(五)ハ對米戰爭勃發シタル場合ノ軍事上ノ覺悟ニ付テハ先程説明アリタルモ最モ心配ナルハ財政上ノ問題ナリ此ノ點ハ大藏大臣ニ於テモ充分ナル覺悟アリト存ズルガ如何

松岡外務大臣　(一)交渉中ニ秘密議定書作成ノ議出タルモ秘密議定書ノ内容ハ日本側ノ要求ノミヲ入ルル片務的ノモノトナリ之ヲ完全ニスル爲ニハ時日ヲ必要トスルノミナラズ伊太利ノ同意ヲモ取付クル必要アリタルニ依リ秘密議定書ノ作成ヲ避ケ本大臣ト在京獨逸大使トノ間ニ文書ヲ交換シテ秘密議定書ニ代ツルコトトナリタル次第ナリ(二)防共協定ハ其ノ儘存置ス日本トシテハ防共ト云フ

(日本標準規格B5)

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

大方針ハ蘇聯トノ關係如何ニ拘ラズ之ヲ堅持シ行カザルベカラズト思考ス(三)獨伊ノ關係ハ成程緊密ナルモ伊太利ノ日本ニ對スル感情ハ獨以上ノモノアルヲ以テ御心配無用ト思考ス獨別ニ文書ヲ要セザルモノト考フ伊太利大使ハ極メテ明白ニ伊太利政府ノ同意ヲ申出來レリ

河田大藏大臣　菅原顧問官ノ御質問ノ第五點ニ付テハ極力國民ノ負擔增加ヲ防グ樣指畫シ度キ所存ナリ

松浦顧問官　本條約ノ趣旨トスル所ハ日米關係ノ惡化ヲ防止スルニ在リ本官モ最モ之ヲ希望スル次第ナルガ不幸ニシテ最惡ノ場合ガ起リタル時ニ處スベキ準備ハ之ヲ充分整ヘ置カレ度シ

湯原顧問官　最惡ノ場合ニ於ケル國內情勢食糧問題等ニ付質問アリ

(日本標準規格B5)

企畫院總裁ヨリ回答ス

林顧問官　條約ノ主眼トスル點ハ對米關係ナルガ對蘇關係ハ此ノ際最モ愼重ニ考慮スル必要アリト存ズ外務大臣ノ御說明ニ依レバ對蘇關係ニ付樂觀的ノ考ヲ有シ居ラルルヤノ印象ヲ得タルガ本官ノ有スル情報ニ依レバ日蘇間竝ニ獨蘇間ノ關係ノ將來ニ付相當惡キ材料モアリ例ヘバ昨年獨蘇不可侵條約ガ締結セラレタル際「スターリン」ガ共產黨員ニ與ヘタル訓示ノ內容ニ付自分ノ有スル確實ナル情報ニ依レバ「スターリン」ハ蘇聯ガ今度獨逸ト提携シタルハ西歐赤化ノ一ノ手段ナリ又之ニ依リ決シテ東進政策ヲ拋棄シタルモノニアラズ時期至ラバ積極的ニ出ル積リナリト述ベタル由ナルガ之等ノ點ニ付テハ外務大臣ハ如何御考ナリヤ

(日本標準規格B5)

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

松岡外務大臣　日蘇國交調整ガ爾ク容易ナリトハ自分モ考ヘ居ラズ唯獨逸ハ蘇聯ニ對シテ相當ノ壓力ヲ加ヘ得ルコトハ之ヲ認メザルベカラズ自分ノ有スル確實ナル情報ニ依レバ昨年蘇聯ガ何故ニ英佛ヲ離レテ獨逸ト提携スルニ至レリヤト云フニ其ノ動機ノ最モ重要ナル一ハ「ヒトラー」ハ「スターリン」ニ對シテ若シ獨逸側ノ要求ガ容レラレザレバ獨逸ハ蘇聯ヲ攻撃スベシト申傳ヘタリト云フコトナリ之等ヨリ判斷シテ日蘇國交調整ニ獨逸ヲ斡旋セシムルコトハ相當有效ナリト考ヘ居レリ

深井顧問官　條約第三條ノ場合卽チ日米戰爭ノ場合ニ獨逸ハ如何ナル軍事上ノ援助ヲ日本ニ與ヘ得ルヤ

松岡外務大臣　右ハ交渉ノ際ニモ論議セラレタルガ獨逸ハ第三條ノ事態發生以前ニ於テモ新兵器等ヲ日本ニ供給スベシト申シ居リ又日米戰爭勃發ノ場合ニハ大西洋方面ニ於テ米國ヲ牽制スルコトニナリ居レリ

東條陸軍大臣　蘇聯トノ諒解ノ下ニ優秀ナル軍用器材ノ供給ヲ受クルコトガ最モ重要ナル援助ナリ

及川海軍大臣　大体陸軍ト同樣ナリ

深井顧問官　蘇聯ニ對スル關係ニ於テ獨逸ガ蘇聯ヲ牽制スルトハ如何ナル意味ナリヤ斯カル事ハ獨蘇不可侵條約ニ正面ヨリ反スルモノニアラズヤ

東條陸軍大臣　條約上ハ其ノ通ナルガ實際ノ軍事上ノ動キヨリ云ヘバ獨逸ハ蘇聯ヲ牽制シ得ルモノナリ現ニ獨逸ハ對英作戰ヲ行ヒ

(日本標準規格B5)

B-0059
0169
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ツツアルモ其ノ軍事ノ大部分ヲ機械化部隊ト共ニ國内ニ保有シ居リ之ガ軍事的ニハ蘇聯ヲ牽制シ居ル次第ナリ

深井顧問官　外務大臣ハ日蘇間ノ相互信頼ト云フコトヲ申サレタルガ獨逸側ノ昨年ノ獨蘇不可侵條約締結ノ際ノ態度ハ不信ト云フノ外ナシ昨年九月阿部發獨外相ガ本院ニ於テ外交經過ヲ說明シタル際當時ノ澤田外務次官ガ平沼内閣ニ於テ獨蘇協定ガ日獨防共協定ノ祕密協定ニ違反セル點ヲ指摘シテ獨逸ニ對シ抗議ヲ提出セル旨ヲ述ベタル處右抗議ノ結果ハ如何ナリ居ルヤ

松岡外務大臣　本大臣ノ聞ク所ニ依レバ右抗議ガ果シテ先方ニ通ジ居ルヤ否ヤ疑ハシク思ラク獨逸側ヨリハ何等ノ回答ナカリシモノト思考ス

深井顧問官　對外關係ニハ感情ヲ交ヘルコトハ禁物ニシテ外交ハ飽ク迄現實的ニ行ハザルベカラズト思考スル處本條約ノ前文ニ萬邦ヲシテ各其ノ所ヲ得シムルトアルガ「ヒトラー」ノ常ニ云フ所ハ弱肉强食ハ自然ノ法則ナルカノ如キ感觸ヲ與フルガ獨逸側ハ果シテ此ノ前文ノ趣旨ヲ正當ニ理解シ居ルヤ

松岡外務大臣　我外交ノ使命ハ皇道ノ宣布ニ在リ利害得失ノミニ依リテ動クモノニアラズ弱肉强食ノ如キ思想ハ斷ジテ之ヲ排撃スベキモノト考フ

深井顧問官　日米戰爭ヲ不可避トスレバ此ノ際獨逸カ英米カ孰レカニ外交ノ重點ヲ置カザルベカラズト云フコトハ理解出來ルモ本條約締結ノ結果ハ或ハ日米戰爭ヲ早メルコトトナルヤモ知レズ總

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

理大臣ハ最悪ノ場合ニ於ケル軍需品、一般物資ノ缺乏思想ノ悪化等ニ對處シテ之ヲ切抜ケ得ル自信アリヤ否ヤ覺悟ヲ承リ度シ

近衛總理大臣　本條約ノ根本ノ考ヘ方ハ元ヨリ日米ノ衝突ヲ回避スルニ在リ然レ共下手ニ出レバ米國ヲツケ上ラセル丈ナルニ依リ毅然タル態度ヲ示ス必要アリト思考ス萬一最悪ノ事態ヲ生ジタル場合ニハ政府ハ外交内政ヲ通ジテ非常ナル覺悟ヲ以テ施策セザルベカラズト考ヘ居レリ先日本大臣ガ參内本件ヲ上奏致シタル際天皇陛下ニ於カセラレテモ非常ナル御決心ヲ有シ遊バサルルコトヲ伺ヒ寔ニ恐懼感激ニ堪エズ本大臣トシテモ身命ヲ賭シテ本條約ノ遺憾ナキ運用ヲ期シ度シト考ヘ居レリ

二上顧問官　外交上、經濟上ニ付テハ大分質疑應答アリタルニ依リ自分ヨリハ條約其ノモノニ付質疑ノ點ヲ質シ度シ先形式ノ點ニ付テ玆ニ配布ノ書類ノ中何々ガ御諮詢ニナリ居ルヤ不明ナリ之等ノ文書ハ日本文ガ本文ナリヤ交換文書ノ方モ内容ヨリ見レバ同際約束ト思ハルルガ之ニ付テハ御諮詢ナキ次第ナリヤ

松岡外務大臣　御諮詢ニ相成リ居ルハ條約案ノミニシテ他ハ參考ナリ條約ノ本文ハ日本文、獨逸文及伊太利文トナル筈ナルモ蓋シ英文ノモノニ署名スルコトトナリ居レリ

松本條約局長　附屬ノ交換文書ハ條約ト同樣ノ效力ヲ有スル所謂交換公文トハ内容並ニ形式（例ヘバ番號ヲ附ス）ニ於テ異リ居リ所謂國際約束トハ認メ難キモ條約ノ解釋及松岡大臣ト「オット」大使トノ意見ノ一致シタル點ヲ記載セルモノニシテ極メテ重要ナ

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ル文書ト認メテ参考トシテ上奏案ニ附属セシメタル次第ナリ

二上顧問官　蓋シ当リ英文ニ署名スルト云フガ如キハ異例ニシテ斯カル手續ガ許サルルトハ思ハズ又交換文書ノ内容ハ国際約束ナルヲ以テ之亦御諮詢ノ客体トスベキモノト思考ス

原　議長　之等形式ノ問題ニ付テハ後刻懇談会ヲ開催スルコトト致度シ

（審査委員会終了後政府側遍席シ懇談会ヲ開キタル結果條約案文ノミヲ御諮詢ノ客体トスルコト並ニ蓋シ當リ條約案日本文ノミヲ審議シ英文ニ署名シ後日日獨伊文トスル代フル點ハ默過スルコトニ決定セル趣ナリ）

二上顧問官　條約第三條ニ欧洲戦争又ハ日支紛争ニ参入シ居ラザルトアルハ不正確ナル旨現シ方ニテ欧洲戦争又ハ日支紛争ノ雙方ニ参入シ居ラザル一国ガ攻撃シタル場合ニハ第三條ガ發動スル様ニモ取レル處其ノ點如何次ニ混合專門委員會トハ先程ノ外務大臣ノ説明ニ依レバ軍事ト經済トノ混合ノ様ニモ取レタルガ之ハ三国ノ混合ノ意味ニアラズヤ更ニ第五條ト第三條トヲ合セ考フルニ獨逸ハ蘇聯トノ間ニ不可侵條約ヲ有スルヲ以テ日本ガ蘇聯ヨリ攻撃ヲ受ケタル場合ニモ獨逸ハ蘇聯ヲ攻撃スルコト能ハズ之ニ反シテ獨逸ガ蘇聯ヨリ攻撃ヲ受ケタル場合ニハ日本ハ獨逸ヲ援助スル爲蘇聯ヲ攻撃セザルベカラズ從テ片務的ノ規定ナラズヤ

松岡外務大臣　二上顧問官ノ御質問ノ第一點ハ用語ノ問題ニテ實際ノ解釋上ハ疑義ヲ生ズル餘地ナシト思考ス第二點ハ勿論三国ノ

（日本標準規格B5）

B-0059

混合委員會ノ意味ナリ第三條ガ第五條ノ結果日本ニ片務的ナリトノ議論ハ本條ノ政治的意味ヲ淺却シタルモノニシテ蘇聯ガ獨逸ヲ攻撃スルガ如キ場合ニハ獨蘇間ニ現存スル政治的狀態ハ重大ナル變革ヲ受クルモノニシテ斯カル場合ニ日本ノ處スル道ハ本條ノ規定ノ範圍外ナリト思考ス本條ノ趣旨ハ蓋當リ本條約ガ蘇聯ヲ目標トシ居ラザルコトヲ明示シタルモノナリ

眞野顧問官　質問ナシ

大島顧問官　大東亜ノ範圍ニ付テハ何等カ話合アリシヤ

松岡外務大臣　勿論話合アリシコトハ本日午前中説明シタル通ナリ

小幡顧問官　日本ガ日支事變ヲ解決シ居ラザル此ノ際ニ當テ歐洲

(日本標準規格B5)

戰爭ニ米國ガ參戰シタル場合ニ獨伊ヲ援助スル義務ヲ負ソコトハ極メテ重大ナル義務ヲ負ソモノナルニ反シ日米ガ開戰スルト云フ可能性ハ少シト思ハル依テ本條約ハ極メテ片務的ナルモノトナラザルヤ

松岡外務大臣　米國ガ歐洲戰爭ニ參加スルヤ否ヤ又日米戰爭ガ勃發スルヤ否ヤハ雙方五分五分ノ可能性アリト見テ差支ナシ依テ片務的ノモノトハ思考セズ

竹越顧問官　本條約締結ノ結果最惡ノ場合ヲ生ジタルトキ獨逸ハ如何ナル援助ヲ日本ニ與ヘ得ルヤ又日本海軍ガ獨伊ヲ援助スル場合ニハ如何ナル援助ヲ爲スヤ

松岡外務大臣　如何ナル援助ヲ與ヘ得ルヤ等ノ問題ハ混合委員會

(日本標準規格B5)

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ニテ充分研究セザルベカラズ

鈴木春奎委員長　本條約ノ成立ト否トニ拘ラズ日米戰爭ハ不可避ト考フルニ依リ米國海軍ノ擴張ヲ充分監視シテ之ニ相應スル準備ヲ怠ルベカラズ

及川海軍大臣　盡當リ進職御決ヲ米國ニ當レバ充分勝算アリ將來ニ付テハ着々各般ノ擴張計畫ヲ目論ミ居ル次第ナリ

石井顧問官　交換文書ノ最後ノモノヲ見ルニ我委任統治下ノ南洋群島ハ依然日本ノ屬地トスルモ之ニ對シ代價ヲ支拂フベキ旨記載シアリ之ニ對スル松岡大臣ノ說明ニ依レバ「ヴェルサイユ」條約ハ既ニ消滅シタルモノナルニ依リ南洋群島ハ日本ハ今尙軍事占領ヲ繼續セルモノニシテ從テ日本ハ獨逸ヨリ代價ヲ支拂ヒテ之ヲ讓

(日本標準規格B5)

受クル必要アリトノコトナル處委任統治地域ハ「ヴェルサイユ」條約ニ依テ五大國ニ讓渡セラレタルモノヲ日本ガ獲得シタルモノト見ルベク既ニ日本ノ屬地ナリト解スルヲ以テ正シト自分ハ思考スルニ依リ獨逸大使ノ口頭宣言ニハ自分ハ賛意ヲ表シ兼又尤モ本問題ハ御諮詢外ノ問題ナルヲ以テ唯御參考迄ニ自分ノ意見ヲ述ブルニ止メ置キタシ

松岡外務大臣　立博士等有力ナル國際法學者ノ意見ハ委任統治ハ領土ノ讓渡ニ非ズト爲シ居レルガ故ニ法理論ヲ別トシテ實際政治ノ問題トシテハ一應獨逸ヨリ何等カノ方法ニテ割讓ヲ受クル方可ナリト云フコトガ自分ノ三年以來ノ考ナリ聞ク所ニ依レバ三年位前ニ日本海軍ヨリ在伯林ノ海軍武官ヲ通ジテ獨側ニ對シ一定ノ代

(日本標準規格B5)

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

償ノ下ニ割譲方申出タル趣ナリ

石井顧問官　本問題ニ付テハ立博士トモ意見ヲ交換シタルコトアリ立博士ノ意見モ委任統治ガ領土ノ割譲ニアラズト云フ丈デ満足ガ五大國ニ譲渡シタル點ニ付テハ爭ナキ樣思考ス從テ今更日本ガ満洲ヨリ代償ヲ支拂ヒテ割譲ヲ受クルガ如キハ本官ノ同意シ難キ所ナリ

三土顧問官　今朝來ノ質疑應答ヲ聞イテ居レバ米國トノ戰爭トナリタル場合ノコトヲ主トシテ論議セラレ居ル樣ナルモ本條約締結後直ニ米國ノ我國ニ對スル經濟壓迫ハ一層加重セラルルモノト思考ス其ノ場合ニ於ケル我國民生活ノ問題ハ重大ナル問題ナリト思ハルル處之ニ付テハ充分ナル用意出來居レリヤ又日本人ハ鬼角此

外務省

ノ種ノ條約ガ出來ルト満洲カブレトナリ反米運動等ヲ試ムルモノ出テ來ル惧アリ斯カル點ハ厳ニ取締リ頂キタシ

星野企畫院總裁　國民生活ノ問題ハ政府トシテ最モ關心ヲ有シ居リ之ガ對策ニ付テハ萬遺憾ナキヲ期シタシ

近衛内閣總理大臣　排米運動ヲ取締ルコトハ極メテ同感ナレバ厳重實施致シタシト存ズ

午後七時三十分政府側退場

外務省

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

別紙甲号

日伊三国條約締結ニ関スル件（近衛総理大臣枢密院委員会席上ノ挨拶文案）

御承知ノ通リ支那事変ハ未ダ解決セザルニ当リ、近来米国ノ我国ニ対スル態度ハ極度ニ強硬ヲ加ヘテ居リマスガ米国ノ態度ガ硬化スルニ連レマシテ重慶政府其ノ他日本ニ敵意ヲ有スル各国政府ノ態度ニモ影響シ我国ノ国際的地位ハ益々困難トナリ前途誠ニ憂慮ニ堪ヘザル次第デアリマス。此ノ難局ヲ打開致シマス為ニハ我国ノ国際的立場ヲ強化スルコトガ必要デアリマスガ其ノ方法ハ現在ノ環境ニ於テ我方ト利益ノ一致スル国家トノ提携ヲ強化スルコト以外ニハナイト思ヒマス。然ルニ独伊ハ米国ノ参戦ヲ防止スルコトヲ希望シ、我国ハ米国トノ危機回避ヲ希望スル點ニ於テ利害ノ一致ヲ見テ居ルノデアリマス。依テ政府ハ組閣以来鋭意此ノ方向ニ向ツテ努力ヲ續ケテ来タノデアリマスガ、最近ニ至リ遂ニ御手許ニ差上ゲマシタルガ如キ條約案ニ依リ我国ガ今次欧洲戦争ニ参加スルコトナクシテ右両国トノ提携ヲ強化シ得ルノ機運ニ達シマシタノデ右ニ基キ両国ト條約締結方御諮詢ヲ仰ギ度イト存ジテ居リマス。而シテ本案件ハ国ヲリ平和ヲ目的トスルモノデアリマスガ最悪ノ事態ノ發生ヲモ覚悟スル必要ガアリマスノデ我国運ノ消長ニ關スル未曾有ノ重大案件ト申スベキデアリマス。依ツテ謹メテ慎重ニ審議ヲ盡シ御決定ヲ仰ギ度イト考ヘ居リマス次第デアリマス。本案件ノ本日迄ノ経過並ニ独・伊両國トノ間ニ締結セントスル條約案ニ付キマシテハ之ヲリ外務大臣ヨリ詳細説明致シマス。

外務省

（日本標準規格B5）

外務省

（日本標準規格B5）

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

議事概要

秘

樞密院本會議議事概要

九月二十六日午後九時四十五分開會

宮中東溜ノ間ニ於テ

出席者

金子顧問官及田中顧問官ヲ除ク全顧問官出席

全關係出席

説明員ハ審査委員會ト同樣

天皇陛下九時四十五分出御

原議長開會ヲ宣ス

鈴木副議長審査委員長トシテ委員會ノ經過ヲ報告シ本條約締結ニ伴フ政府ノ施策方針ヲ期スルコト對英米關係ニ於テ採用ノ刺戟ヲ避ク

外務省

（日本標準規格B5）

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ルコト等ノ希望ヲ附加シタル審査報告ヲ朗讀ス

石井顧問官

本案ニ賛成ナルモ近代ノ同盟ハ古代ノ同盟トハ異リ利害關係ノ結合ニ過ギザルモノナリ歴史ノ教フル所ニ依レバ同盟國間ノ關係ハ頗ル難シキモノナリ殊ニ獨逸ハ最モ惡キ同盟國ニシテ獨逸ト同盟ヲ結ビタル國ハ凡テ不慮ノ災難ヲ被リ居レリ「ビスマルク」ハ嘗テ同盟ニハ常ニ騎馬武者ト駑馬トアリト云ヘリ事實獨逸ガ同盟國タル土、墺ヲ過スルコト恰モ騎馬武者ガ駑馬ヲ操ルガ如ク彼等ノ獨立性ハ完全ニ失ハレタリ或ハ「ナチス」ハ帝制獨逸トハ異ルト云フ論ヲ爲スモノモアルナランモ「ヒトラー」モ國際條約ヲ以テ一片ノ紙片ト見居ルコトハ昨年八月日獨間ニ防共協定アルニ拘ラ

外務省

(日本標準規格B5)

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ズ獨蘇不可侵條約ヲ結ビタルコトニ依リテモ解ル通ナリ

次ニ伊太利ハ如何伊太利ハ「マキアベリー」ヲ生ミタル國ニシテ獨逸ト同盟ヲ結ンデ之ヲ無視シタル獨逸以上ノ强者ナリ今度此ノ獨伊兩國ト同盟ヲ結ブ次第ナルヲ以テ條約ノ運用ニ付テハ充分心セザルベカラズト思考ス然レ共今日ノ日獨伊ノ如ク利害關係ノ全ク一致セル國ハ古今東西ヲ通ジテ稀ニシテ此ノ三國ガ結合スルコトハ蓋シ自然ノ勢ト云フベク此ノ見地ヨリ本條約ノ締結ハ國策トシテ當ヲ得タルモノト思考ス唯之ガ運用ニハ充分注意スル必要アルベシ

議長賛否ヲ起立ニ問ヒ全員起立滿場一致可決時ニ午後十時十分ナリ

外務省

(日本標準規格B5)

別紙乙号

極秘

1

日獨伊三國條約締結ニ關スル外務大臣説明案

(九月二十六日 枢密院審査委員会)

甲、經過

本大臣ハ七月下旬、現内閣ガ成立致シマシテ以來、獨伊トノ政治的提携ヲ强化シタイト思ヒマシタガ、當時、獨逸ハ佛蘭西ヲ席捲シ、英本國ノ如キモ、旬日ヲ出デズシテ、容易ニ征服シ得ルト云フヤウナ氣勢デゴザリマシテ、獨逸ニ於ケル、我國トノ提携熱ハ一般ニ極メテ低カツタノデアリマス。然シナガラ獨伊ハ、今英本國ヲ屈服サスコトガ出來マシテモ、其ノ後ニ於テ、英帝國全部ノ崩壞戰ハ事シカク容易デハゴザリマセヌ上ニ、更ニ米國ト英帝國ノ殘存勢力トガ結合シテ出來ルトコロノアングロ・サクソン王國

外務省

(日本標準規格B5)

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

又ハ**プロック**トモ云フベキモノト今次ノ戰爭ニ依ツテ强大ヲ加ヘタル**ソ**聯邦ト云フ二大勢力ト對抗シナケレバナラヌコトハ明瞭デアリマス。其ノ場合地理的ニ惠マレタ地位ヲ占メ且世界無比ノ國體ノ下ニ優秀ナル民族ヲ持ツ我國ノ力ハ偉大ナルモノガアリマスノミナラズ、現在ト雖モ或意味ニ於キマシテ皇國ハ實ニ世界ノ天秤ヲ左ニデモ右ニデモ上下サス丈ノ力ヲ持ツテ居ルト云フノガ不肖本大臣ノ抱ケル見透シト見解デアリマス。而シテ此ノ事位ハ**ヒトラー**總統及少クトモ其ノ周圍ノ者ダケハ認識シテ居ルデアラウト想像シマシタ、否ソノ容子ガ多少窺ハレタノデゴザリマス。彼等ハ當時ニ於テモ我國トノ提携ニ相當ノ熱意ヲ持ツテ居タヤウデアリマス。根本ニカヤウナル考ヲ持ツテ居リマシタガ故ニ私ハ諸

(日本標準規格B5)

般ノ情況上一應ハ急ギタイト云フ心持ノ中ニモ固ヨリ下手ニ出ル要モナク、又已ムヲ得ナケレバ英本國屈服後トナツテモカマワヌ、若シサウナツタナラバ、愈々以テ緩ツクリト構ヱヤウト決意致シテ居ツタノデアリマス。何レニ致シマシテモ、當時焦ルト見ラレルヤウナ手ヲ我方カラ出シマスルコトハ外交上禁物デアツタノデゴザリマス。

我ガ獨自ノ立場ヲ堅持シ、必ズシモ獨伊ト結ブノ要ナシ、若シソレガ我國ノ存立ト使命遂行上、必要又ハ便利デアルナラバ、米ト結ビ、或ハ英ヲ救フコトヲモ敢ヘテ辭セヌト云フ姿勢サヘ示シテカカラナケレバナラヌト信ジタノデアリマス。ソレカラ、何ヨリモ先ヅ獨伊始メ世界ニ向ツテ本件ニ關シ斥候戰ヲ始メナケレバナ

(日本標準規格B5)

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ラナカツタノデアリマス。本大臣ハ就任前後ヨリ遲滯ナク之ヲ開始シ、少シク容子ガ知レマシタノデ、一歩ヲ進メ本大臣ハ八月一日オツト大使ヲ御茶ニ招キテ、樞軸强化ガ我朝野ヲ通ジテノ傾向ナルハ貴大使モ御承知ノ通リデアルガ、ソレガ吻ニナルニハマダマダ容易デハナイ、廟議モ未ダ具体的ニ確定シテハ居ナイト云フ趣旨ヲ告ゲマシタ上、支那事變ハ日本獨力ニテ其内片付ケル考デアルカラ、別ニ獨逸ニ於テ意ヲ煩ハサレナイデヨロシイト申述ベマシテ、一應大使ノ仲介セントスル口吻ヲ押ヘ、我建國以來傳統タル八紘一宇ノ大理想ヲ實現セントスル決意ノ眞劍ナル事ト、先ヅ之ヲ大東亞共榮圏内ニ於テ試ミントスルモノナル旨ヲ説キ、次デ、タトヘ英本國ガ間モナク屈スルトモ、ソレハ大英帝國崩壞ノ

ホンノ初マリナルニ止マリ、決シテ終ニアラザル所以ヲ申聞ケ（大使モ同様ノ事ヲ自ラ進ンデ申シテ居リマシタ）右二ツノ大局的觀點ヨリシテ、獨モ亦日本トノ提携ノ可否ヲ決スベキデアルト結論シ㈠大東亞圏ニ對スル前述ノ日本ノ理想實現ニ付獨逸ハ如何ナル態度ヲ執ルカ、如何ナル事ヲ以テ日本ヲ助ケ得ルカ又助ケル考ナルカ、又コノ圏内ニ於テ獨逸ハ何ヲ求ムルカ、㈡日ソ關係ニ就キ獨逸ハ如何ニ考フルカ、又何ヲナシ得ルカ、㈢日米關係ニ就キ如何ニ考フルカ又何ヲナシ得ルカトテ、以上三項ニ關スル本大臣ノ質問ヲ至急ヒトラー總統トリツベンツロップ外相ニ架電シテ、其返事ヲ得ラレタシト告ゲマシタ。

右ニ對スル返事ハ容易ナラズトシテ、獨大使ハ澁ツテ居リマシテ、

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

私モ亦容易ニソノ返事ハ來ナイデアラウト豫想シマシタトコロ、果シテ來マセンデシタ。私ハ態ト催促セズニ放ッテ置キマシタ。然ルニ、リッペントロップ外相ハ其東洋問題ニ關スル懷刀デアルト言ハレテ居リマスル、ハインリッヒ・スターマー總領事ヲ公使ニ昇任セシメタ上、八月二十三日ベルリン出發、急遽モスコーヲ經テ、本邦ニ送ッタノデアリマス。同公使ハ九月七日朝東京ニ着キマシタノデアリマスガ、本大臣ハ別ニ急イデ會ヒタイ態度ハ示サナカッタノデアリマス。トコロガ九日先方ヨリ會見ヲ申出デマシタノデ、人目ヲ避クル爲同日私ノ私邸デ、同公使及オット大使ト會見致シマシタ。ソレカラ十日二度目ノ會見ヲ遂ゲ九月十一日三度目ノ會見ニ於テ一案ヲ得、更ニ兩國間ニ意見ヲ交換シタル結

(日本標準規格B5)

果條約案ノ要綱ヲ作成致シマシテ爾後更ニ右要綱ニ基イテ交渉ヲ進メ今般條約案ノ妥結ニ達シタ次第デ御座イマス。

乙、條約案ノ説明

前文ニ付テハ別ニ御説明スル必要ハナカラウカト存ジマスルガ我建國ノ御詔書ノ中ニアリマスル八紘一宇、即チ總テノ國民、民族ガ各其ノ所ヲ得ルト云フ大精神ニ基キ余程辭句ヲ練ッタモノデ御座イマス

第一條ニ日本ハ歐洲ニ於ケル新秩序建設ニ對スル獨伊ノ指導的地位ヲ認メ且之ヲ尊重ストアリマスガ、當方デハ當初アフリカニ於ケル新秩序建設ヲ先方ガ持出スカト思ッタノデゴザリマスガ、先方ガ之ヲ持チ出サナカッタカラ、單ニ歐洲ニ於ケル新秩序建設ニ

(日本標準規格B5)

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

對スル地位承認ニ限ツタ次第デアリマス。

第二條ノ「大東亞ニ於ケル新秩序建設」ト云フ「大東亞」ノ意味ハ只今ノトコロ佛印、タイ國、ビルマ、海峽植民地、蘭印ヨリニューギニヤ、ニューカレドニヤ等ヲ含ムオセアニアノ島嶼ヲ含ム意味デアリマシテ、此ノコトハ此際ノ事デモゴザリマスシ、ソレニ東亞ノ形勢如何ト世界情勢ノ推移ニヨリ漸次其範圍ニ變更ノアリマスコトト豫想サレルコトデモゴザリマスノデ、先方ヘハ態ト大概ミニ話シ、濠洲トニュージーランド及其以南ハ今ノ處這入ラヌガ、時ト共ニ自然範圍ハ擴ガルナラン、ト申聞ケ、印度ニハ言及ヲ避ケマシタ。先方モ別ニ細カクハ尋ネズシテ本大臣ノ所述ニ同意ノ意ヲ表シマシタ。

是ニ對シ獨逸ハ右區域ニ於ケル日本ノ政治的指導權ハ認ムルガ、經濟的ノ通商、企業、原料取得ト云フガ如キコトニ就テハ日本ニ於テモ出來得ル限リ便宜ヲ與ヘテ貰ヒタイト申シテ居ルノデアリマス。日本側モ亦同地域ノ經濟的開發ニハ大ニ獨伊ノ協力ヲ得ンコトヲ期待スルモノデアルト應酬シテ置キマシタ。

第三條ノ中「現ニ歐洲戰爭又ハ日支紛爭ニ參入シ居ラザル一國ニ依リ攻擊セラレタルトキハ云々」ノ一國ト申スノハ暗ニ米國ヲ主トシテ指シタノデアリマシテ、其ノ一國ニ依リ攻擊セラレタル場合ニハ自動的ニ參戰義務ガ發スル次第デアリマシテ、則チ我國ハ獨伊ト米國ヲ對照トスル軍事同盟ニ這入ルノデアリマス。

第四條ハ本條約實施ノ爲日獨伊三國委員ヨリ成ル混合專門委員會

B-0059
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ヲ遲滯ナク開催スベキ旨ヲ規定シテ居リマス。

第五條ハ本條約ガ蘇聯ニ向ケラレタルモノニ非ザルコトヲ規定シタモノデアリマス、ガ、實ハソ聯ハ獨伊對英佛戰ニハ參加シテ居ナイ建前トナツテ居ルノデ、或ハ第三條ノ所謂「一國」ニ相當スルモノデハアルマイカトノ疑惑ヲ生ズル虞モアリマスシ、旁々日獨伊ガ世界新秩序ヲ造ル上ニ於テ蘇聯ヲ敵ニ廻ス懸念ノナイコトヲ明カニシ、特ニ獨逸ト蘇聯トノ間ニポーランド始メ、歐洲ニ於ケル現在ノ取極又ハ見解若クハ或種ノ事態ヲ存セル、ソノ事實ニ些カモ影響スル所ノナイコトヲ明カニシテ、蘇聯ヲ安心サセ、之ニ依リ米蘇ノ接近ヲ防グノ目的ニ資シヤウトスル趣旨デアリマス。

丙、結言

今回ノ對獨交渉ノ基礎ハ平沼內閣時代ノ夫レト全ク異ツテ居リマス。卽チ獨逸側モ日本ノ歐洲戰爭參加ノ必要ナシト言明シテ居ル次第デアリマシテ、獨逸ハ米國ノ參戰ヲ、日本ハ日米衝突ヲ、同避スル事ヲ共通目的トシタノデアリマス。從テ皇國政府ガ從來採ツテ來マシタ不介入ノ方針ハ、將來本條約ニヨリ影響セラレルコトアルベシト云フ豫想付ニテ、一應ハ繼續セラレル次第デアリマス。

米國ハ「カナダ」トノ共同防衛ヲ決定スルヤ、間モナク、日米間ノ些細ナ問題ニ迄、殆ンド堪ヘ難イト思ヘルガ如キ態度ヲ以テ臨ンデ來マシタノデ、本大臣ハ已ムナク此程嚴肅ニ米大統領及國務長官ノ反省ヲ促シタヤウナ次第デアリマス。

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

最近ノ動キニ就キ洞察シマスルニ、米國ハ太平洋及ビ南洋方面ニ亘リテ、已ニ施シ若クハ現ニ施シツツアル軍事施設ニ加フルニ此ノ際飛躍的ニ且取急イデ濠洲、新西蘭、印度、ビルマ其ノ他ノ南方ニ於ケル英領ノ必要地點ニ、有力ナル軍事根據地ヲ獲得シ、以テ日本包圍ノ陣形ヲ整ヘントシテ居ルノデハアルマイカト、カナダトノ前述共同防衛ニ關スル協定成立ガ報ゼラレマシタル時、本大臣ハ已ニ想像シタノデゴザリマスガ、其後間モナク獨日泰果然英帝國及ビ濠洲政府ト米國トノ間ニ、協議進行中ノ旨ノ、可ナリ信ズルニ足ルト想ハルル、新聞報道サヘ傳ヘラルルニ至ツタノデアリマス。又段々ト支那事變ニテ日本ガ消耗戰ニ惱ンデ、國力ガ著シク減殺セラレタト見テ恫喝的言辭ヲ弄スルノデハアルマイカト想像セラル

(日本標準規格B5)

ル廉モゴザリマスガ、ソノ理由ノ那邊ニ在ルニセヨ、日米國交ハ最早禮讓又ハ親善希求等ノ態度ヲ以テ改善スルノ餘地ハ殆ンドナイト思ハレマスノミナラズ、却ツテ惡化サス丈ノ事デハアルマイカト懸念セラルル有樣ニナツテ參リマシタ。若シ幾分ニテモ之ヲ改善シ又ハ此ノ上ノ惡化ヲ防グ手段アリトスレバ唯毅然タル態度ヲ採ルト云フ事シカ、此ノ際ノ措置トシテハ、殘ツテ居ナイト存ジマス。苟モ然リトスレバ、ソノ毅然タル態度ヲ强ムル爲ニ一國ニテモ多クノ國ト堅ク提携シ、且ソノ事實ヲ一日ニテモ、速ニ中外ニ宣明周知セシムルコトニ依リテ、米國ニ對抗スル事ガ、外交上喫緊事デアルト信ズルノデアリマス。然シ本大臣ハカカル措置ノ反響乃至效果ヲ注視シツツ尙米トノ國交ヲ轉換スルノ機會ハ、

(日本標準規格B5)

B-0059

0185

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

之ヲ見逃サナイ用意ヲ常ニ怠ラナイ覚悟デゴザリマス、唯ソレニシテモ、一應ハ非常ナ堅イ決心ヲ以テ毅然對抗ノ態度ヲ、中外ニ向ツテ一點疑ヒヲ容ルル餘地ノナイマデニ、明確ニ示サナケレバナリマセヌ。此ノ點ハ本條約締結ニ伴フ最重要ナル點デアリマスカラ、最後ニ之ヲ反覆シテ置キマス。

(日本標準規格B5)

別紙乙号

別紙乙号

日獨伊三國條約締結ニ關スル外務大臣説明案

甲、經過

本大臣ハ七月下旬、現内閣ガ成立致シマシテ以來、獨伊トノ政治的提携ヲ強化シタイト思ヒマシタガ、當時、獨逸ハ佛蘭西ヲ席捲シ、英本國ノ如キモ、旬日ヲ出デズシテ、容易ニ征服シ得ルト云フヤウナ氣勢デゴザリマシテ、獨逸ニ於ケル、我國トノ提携熱ハ一般ニ極メテ低カツタノデアリマス。然シナガラ獨伊ハ、今英本國ヲ屈服サスコトガ出來マシテモ、其ノ後ニ於テ、英帝國全部ノ崩壊戰ハ事シカク容易デハゴザリマセヌ上ニ、更ニ米國ト英帝國ノ殘存勢力トガ結合シテ出來ルトコロノアングロ・サクソン王國

(日本標準規格B5)

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

又ハブロックトモ云フベキモノト今次ノ戰爭ニ依ツテ强大ヲ加ヘタルソ聯邦ト云フ二大勢力ト對抗シナケレバナラヌコトハ明瞭デアリマス。其ノ場合地理的ニ惠マレタ地位ヲ占メ且世界無比ノ國體ノ下ニ優秀ナル民族ヲ持ツ我國ノ力ハ偉大ナルモノガアリマスノミナラズ、現在ト雖モ或意味ニ於キマシテ皇國ハ實ニ世界ノ天秤ヲ左ニデモ右ニデモ上下サス丈ノ力ヲ持ツテ居ルト云フノガ不肖本大臣ノ抱ケル見透シト見解デアリマス。ソウカト申シマシテモ總理大臣ノ云ハレタ樣ニ日本國際情勢ハ極メテ困難ナノデアリマス。而シテ此ノ事位ハヒトラー總統及少クトモ其ノ周圍ノ者ダケハ認識シテ居ルデアラウト想像シマシタ、否ソノ容子ガ多少窺ハレタノデゴザリマス。彼等ハ當時ニ於テモ我國トノ提携ニ相當

(日本標準規格B5)

ノ熱意ヲ持ツテ居タヤウデアリマス。根本ニカヤウナル考ヲ持ツテ居リマシタガ故ニ私ハ諸般ノ情況上一應ハ急ギタイト云フ心持ノ中ニモ國ヨリ下手ニ出ル要モナク、又已ムヲ得ナケレバ英本國屈服後トナツテモカマワヌ、若シサウナツタナラバ、意々以テ援ツクリト構エヤウト決意致シテ居ツタノデアリマス。何レニ致シマシテモ、當時焦ルト見ラレルヤウナ手ヲ我方カラ出シマスルコトハ外交上禁物デアツタノデゴザリマス。

我ガ獨自ノ立場ヲ堅持シ、必ズシモ獨伊ト結ブノ要ナシ、若シソレガ我國ノ存立ト使命遂行上、必要又ハ便利デアルナラバ、米ト結ビ、或ハ英ヲ敎フコトヲモ敢ヘテ辭セヌト云フ姿勢サヘ示シテカカラナケレバナラヌト信ジタノデアリマス。ソレカラ、何ヨリ

(日本標準規格B5)

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

モ先ヅ獨伊始メ世界ニ向ツテ本件ニ關シ斥候戰ヲ始メナケレバナラナカツタノデアリマス。本大臣ハ就任前後ヨリ遲滯ナク之ヲ開始シ、少シク容子ガ知レマシタノデ、一歩ヲ進メ本大臣ハ八月一日オツト大使ヲ御茶ニ招キテ、樞軸强化ガ我朝野ヲ通ジテノ傾向ナルハ貴大使モ御承知ノ通リデアルガ、ソレガ物ニナルニハマダマダ容易デハナイ、廟謨モ未ダ具体的ニ確定シテハ居ナイト云フ趣旨ヲ告ゲマシタ上、支那事變ハ日本獨力ニテ其内片付ケル考デアルカラ、別ニ獨逸ニ於テ意ヲ煩ハサレナイデヨロシイト申述ベマシテ、一應大使ノ仲介センストスル口吻ヲ押ヘ、我建國以來傳統タル八紘一宇ノ大理想ヲ實現セントスル決意ノ眞劍ナル事ト、先ヅ之ヲ大東亞共榮圏内ニ於テ試ミントスルモノナル旨ヲ說キ、次

(日本標準規格B5)

デ、タトヘ英本國ガ間モナク屈スルトモ、ソレハ大英帝國崩壞ノホンノ初マリナルニ止マリ、決シテ終ニアラザル所以ヲ申開ケ(一)大使モ同樣ノ事ヲ自ラ進ンデ申シテ居リマシタ。右二ツノ大局的觀點ヨリシテ、獨モ亦日本トノ提携ノ可否ヲ決スベキデアルト結論シ(一)大東亞圏ニ對スル前述ノ日本ノ理想實現ニ付獨逸ハ如何ナル態度ヲ執ルカ、如何ナル事ヲ以テ日本ヲ助ケ得ルカ又助ケル考ナルカ、又コノ圏内ニ於テ獨逸ハ何ヲ求ムルカ、(二)日ソ關係ニ就キ獨逸ハ如何ニ考フルカ、又何ヲナシ得ルカ、(三)日米關係ニ就キ如何ニ考フルカ又何ヲナシ得ルカトテ、以上三項ニ關スル本大臣ノ質問ヲ至急ヒトラー總統トリツベントロップ外相ニ架電シテ、其返事ヲ得ラレタシト告ゲマシタ。其ノ際自分ハ大使ニ太平洋問

(日本標準規格B5)

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

題ノ重要性ヲ述ベ日本ガ米ガ否カニ人類ノ將來ガカカッテ居ルコトヲ說イタノデアリマス。オット大使ハ獨逸ハ米國ノ參戰ヲ希望セズ戰後ハ米國トノ關係改善ニ努メ度イト思フト申シテ居リマシタ。

右ニ對スル返事ハ容易ナラズトシテ、獨大使ハ泣ッテ居リマシテ、私モ亦容易ニソノ返事ハ來ナイデアラウト豫想シマシタトコロ、果シテ來マセンデシタ。（尙八月十七日在京伊太利大使ヲ招致致シマシテオットニ對スルト同樣ノ質問ヲ發シテ置キマシタ。）私ハ態ト催促セズニ放ッテ置キマシタ。然ルニ、リッベンツロップ外相ハ其東洋問題ニ關スル懷刀デアルト言ハレテ居リマスル、ハインリッヒ・スターマー總領事ヲ公使ニ昇任セシメタ上、八月二

（日本標準規格B5）

十三日ベルリン出發、急遽モスコーヲ經テ、本邦ニ送ッタノデアリマス。同公使ハ九月七日朝東京ニ着キマシタノデアリマスガ、本大臣ハ別ニ急イデ會ヒタイ態度ハ示サナカッタノデアリマス。トコロガ九日先方ヨリ會見ヲ申出デマシタノデ、人目ヲ避クル爲同日私ノ私邸デ、同公使及オット大使ト會見致シマシタ。ソレカラ十日二度目ノ會見ヲ遂ゲ九月十一日三度目ノ會見ニ於テ一案ヲ得、更ニ兩國間ニ意見ヲ交換シタル結果條約案ノ要綱ヲ作成致シマシテ九月十九日御前會議ヲ開イテ決定ヲ仰ギ爾後更ニ右要綱ニ基イテ交渉ヲ進メ今般條約案ノ妥結ニ達シタ次第デ御座イマス。

乙、條約案ノ說明

前文ニ付テハ別ニ御說明スル必要ハナカラウカト存ジマスルガ我

（日本標準規格B5）

B-0059

建國ノ御聞書ノ中ニアリマスル人故一字、即チ建ナノ國民、民族ガ各其ノ所ヲ得ルト云フ大精神ニ基キ余程辭句ヲ練ツタモノデ御座イマス。

第一條ニ日本ハ歐洲ニ於ケル新秩序建設ニ對スル獨伊ノ指導的地位ヲ認メ且之ヲ尊重ストアリマスガ、當方デハ當初アフリカニ於ケル新秩序建設ヲ先方ガ持出スカト思ツタノデゴザリマスガ、先方ガ之ヲ持チ出サナカツタカラ、單ニ歐洲ニ於ケル新秩序建設ニ對スル地位承認ニ限ツタ次第デアリマス。

第二條ノ「大東亜ニ於ケル新秩序建設」ト云フ「大東亜」ノ意味ハ只今ノトコロ佛印、タイ國、ビルマ、海峡植民地、蘭印ヨリニューギニヤ、ニューカレドニヤ等ヲ含ムオセアニアノ島嶼ヲ含ム

(日本標準規格B5)

意味デアリマシテ、此ノコトハ此際ノ事デモゴザリマスシ、ソレニ東亜ノ形勢如何ト世界情勢ノ推移ニヨリ漸次其範圍ニ變更ノアリマスコトト豫想サレルコトデモゴザリマスノデ、先方ヘハ態ト大摑ミニ話シ、濠洲トニュージーランド及其以南ハ今ノ處遣入ラヌガ、時ト共ニ自然範圍ハ擴ガルナラン、ト申聞ケ、印度ニハ言及ヲ避ケマシタ。先方モ別ニ細カクハ尋ネズシテ本大臣ノ所述ニ同意ノ意ヲ表シマシタ。

是ニ對シ獨逸ハ右區域ニ於ケル日本ノ政治的指導權ハ認ムルガ、經濟的ノ通商、企業、原料取得ト云フガ如キコトニ就テハ日本ニ於テモ出來得ル限リ便宜ヲ與ヘテ貰ヒタイト申シテ居ルノデアリマス。日本側モ亦同地域ノ經濟的開發ニハ大ニ獨伊ノ協力ヲ得ン

(日本標準規格B5)

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

コトヲ期待スルモノデアルト應酬シテ置キマシタ。

第三條ノ中「現ニ歐洲戰爭又ハ日支紛爭ニ參入シ居ラザル一國ニ依リ攻擊セラレタルトキハ云々」ノ一國ト申スノハ暗ニ米國ヲ主トシテ指シタノデアリマシテ、其ノ一國ニ依リ攻擊セラレタル場合ニハ自働的ニ參戰義務ガ發スル次第デアリマシテ、則チ我國ハ獨伊ト米國ヲ對照トスル軍事同盟ニ這入ルノデアリマス。又交換文書中ニ攻擊ヲ受ケタカドウカハ三國間デ協議シタ上デ決メルコトニナツテ居リ、參戰義務ガ發生シタカドウカハ自主的ニ決定スル樣ニナツテ居リマス。

第四條ハ本條約實施ノ爲日獨伊三國委員ヨリ成ル混合專門委員會ヲ遲滯ナク開催スベキ旨ヲ規定シテ居リマス。之等ノ委員會ハ本

條約實施ノ軍事的、經濟的方法ヲ講究スル次第デアリマス。

第五條ハ本條約ガ蘇聯ニ向ケラレタルモノニ非ザルコトヲ規定シタモノデアリマス、ガ、實ハソ聯ハ獨伊對英佛戰ニハ參加シテ居ナイ建前トナツテ居ルノデ、或ハ第三條ノ所謂「一國」ニ相當スルモノデハアルマイカトノ疑惑ヲ生ズル虞モアリマスシ、旁々日獨伊ガ世界新秩序ヲ造ル上ニ於テ蘇聯ヲ敵ニ廻ス懸念ノナイコトヲ明カニシ、特ニ獨逸ト蘇聯トノ間ニポーランド始メ、歐洲ニ於ケル現在ノ取極又ハ見解若クハ或種ノ事態ヲ存セル、ソノ事實ニ些カモ影響スル所ノナイコトヲ明カニシテ、蘇聯ヲ安心サセ、之ニ依リ米蘇ノ接近ヲ防グノ目的ニ資シヤウトスル趣旨デアリマス。

丙、結　言

B-0059
0191
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

今回ノ對獨交渉ノ基礎ハ平沼内閣時代ノ夫レト全ク異ッテ居リマス。即チ獨逸側モ日本ノ歐洲戰爭參加ノ必要ナシト言明シテ居ル次第デアリマシテ、獨逸ハ米國ノ參戰ヲ、日本ハ日米衝突ヲ、回避スル事ヲ共通目的トシタノデアリマス。從テ皇國政府ガ從來採ッテ來マシタ不介入ノ方針ハ、將來本條約ニヨリ影響セラレルコトアルベシト云フ豫想付ニテ、一應ハ繼續セラレル次第デアリマス。

米國ハ「カナダ」トノ共同防衛ヲ決定スルヤ、間モナク、日米間ノ些細ナ問題ニ迄、殆ンド堪ヘ難イト思ヘルガ如キ態度ヲ以テ臨ンデ來マシタノデ、本大臣ハ已ムナク此程嚴肅ニ米大統領及國務長官ノ反省ヲ促シタヤウナ次第デアリマス。

最近ノ動キニ就キ洞察シマスルニ、米國ハ太平洋及ビ南洋方面ニ亘リテ、已ニ施シ若クハ現ニ施シツツアル軍事施設ニ加フルニ此ノ際飛躍的ニ且取急イデ濠洲、新西蘭、印度、ビルマ其ノ他ノ南方ニ於ケル英領ノ必要地點ニ、有力ナル軍事根據地ヲ獲得シ、以テ日本包圍ノ陣形ヲ整ヘントシテ居ルノデハアルマイカト、カナダトノ間迅共同防衛ニ關スル協定成立ガ報ゼラレマシタル時、本大臣ハ已ニ想像シタノデゴザリマスガ、其後間モナク果然英帝國及ビ濠洲政府ト米國トノ間ニ、協議進行中ノ旨ノ、可ナリ信ズルニ足ルト想ハルル、新聞報道サヘ傳ヘラルルニ至ッタノデアリマス。又段々ト支那事變ニテ日本ガ消耗戰ニ惱ンデ、國力ガ著シク減殺セラレタト見テ恫喝的言辭ヲ弄スルノデハアルマイカト想像

B-0059
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

セラルル廉モゴザリマスガ、ソノ理由ノ那邊ニ在ルニセヨ、日米國交ハ最早禮讓又ハ親善希求等ノ態度ヲ以テ改善スルノ餘地ハ殆ンドナイト思ハレマスノミナラズ、却ッテ惡化サス丈ノ事デハアルマイカト懸念セラルル有樣ニナッテ參リマシタ。若シ幾分ニテモ之ヲ改善シ又ハ此ノ上ノ惡化ヲ防グ手段アリトスレバ唯毅然タル態度ヲ採ルト云フ事シカ、此ノ際ノ措置トシテハ、殘ッテ居ナイト存ジマス。苟モ然リトスレバ、ソノ毅然タル態度ヲ强ムル爲ニ一國ニテモ多クノ國ト堅ク提携シ、且ソノ事實ヲ一日ニモ、速ニ中外ニ宣明周知セシムルコトニ依リテ、米國ニ對抗スル事ガ、外交上喫緊事デアルト信ズルノデアリマス。然シ本大臣ハカカル措置ノ反響乃至效果ヲ注視シツツ尙米トノ國交ヲ轉換スルノ機會

ハ、之ヲ見逃サナイ用意ヲ常ニ怠ラナイ覺悟デゴザリマス、唯ソレニシテモ、一應ハ非常ナ壓イ決心ヲ以テ毅然對抗ノ態度ヲ、中外ニ向ッテ一點疑ヒヲ容ルル餘地ノナイマデニ、明確ニ示サナケレバナリマセヌ。此ノ點ハ本條約締結ニ伴フ最重要ナル點デアリマスカラ、最後ニ之ヲ反覆シテ置キマス。

B-0059
0193
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

極秘

昭和十五年九月二十六日 3/4

三國條約樞密院審査委員會摘錄

軍務局長

配布先　外務省条約局長
軍令部第一部長

海軍

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

三國條約樞密院審査委員會摘記

九月二十六日　於宮中（自午前十時半至午后七時半）

（樞密院側　議長、副議長、顧問官全員
政府側　首相、外陸海相、企画院總裁）

（軍務局長手記）

議事

鈴木副議長主催

樞密院幹事條約文朗讀

總理挨拶

外相説明（別紙）

其ノ中補足シタル点

海軍

一、人類ノ展ヲ支配スルハ日米関係ナリ暴風カ晴天カ此ノ二大勢力ノ態度ニ在リ、獨逸ニ何ヲ為シテ貰イ度イカハ敢テ問ハナイガ Hitler Ribbentrop 等ニ此ノ考ハヨク頭ニ入レテ貰フ、日米ノ関係ハ益悪化スベシ、米國ニ在ル二千五百万ノ独人、三百万ノ墺化独人ノ勢力ハ中々大キイ

二、「攻撃セラレタルヤ否ヤ」ハ三國協議シテ決定スベキ筈ニ付ス定ヲ見バ條約上自働的ニ参戦トナル

当併シ其ノ武力行使ノ時機方法等ハ更ニ研究ス、伊國ハ独ガ開戦シタルトキ直ニ開戦ハセザリキ

如上日本ノ態度ハ「スタターマー」トノ間ニ詰合シアリ

美濃全紙十三行罫紙（本田納）

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

一（河合）

本條約ハ以前ヨリ希望シアリシコトニテ寧ロ

遵カリシト思ッタ、二三質問ス

（一）伊國トノ関係如何

（外）昨日初メテ挨拶ヨリ先方ハヨクワカッテ

居ル、日本トノ関係ハ独ニマカセテ居ッタ

事實伊國関係ノ部面少シ

（二）米ノ参戦ハナキモノト思フモ萬一ノ最悪ニ對

シ軍部大臣ヨリ何等ヒケハ取ラナイト云フ

確信ヲ期シ度イ

（陸）対米戦ハ陸軍トシテ兵力使用ハ一部ノミ

海軍

ナルヲ以テ懸念ナシ

但シ對蘇對支ヲ考フルヲ要ス、蘇トノ國

交調整出来レバ對蘇軍備ハ楽ニナル

蘇ノ性格上警戒準備ヲ要ス

独ノ態度ハ牽制上頗ル有利ナリ、支那事

変ハ如何ナル形態ニテ戦ハルルカハ別ト

シ早ク其ノ處理ヲヤリ度イ

（海）又今磁鉱ハ大体充備シテ居ル

但シ對米長期戦トナレバ米ノ産大ナ軍備

擴充ニ對應スル我海軍々備、軍需品ノ整備

等將来相當ニ困難ヲ予想スルモ之ニドウ

シテモ國力ヲ擧ゲテ時艱克服ノ要素アル

ヲ以テ夫々関係各部ニ協議中ナリ

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

(三)物資、軍需品ハ如何、米國ヨリ輸入出來ナクナル場合我國ノ持久力如何

(仝)期間ヲ明示スルコトハ困難ナリ

數年前ヨリ自給自足態勢ニナル樣努力シ來リシモ今日萬全ノ狀態デナイ

重要ナル國防物資ノ輸入ハ二十六億ナルガ其ノ中十九億ハ英米ヨリ仰イデ居ル併シ之ハ急速輸入ノ為デ一方カラ云フトソレダケ我國防力充實トナル

鐵ハ五百二十万噸計畫ガ四百万噸トナリ中軍需ニ百四十万噸、外二百六十万噸

石油ハ日蘭支ニナキ故蘭印、北樺太ニテ確保ヲ要ス、之ガ為ニモ對蘇國交調整ヲ要ス

海軍

(四)軍部ニ於ケル石油ノ狀況如何

(海)相當期間ノ貯油アリ

(陸)御懸念ノ期間ハ耐久シ得、長期戰トナレバ困難ヲ伴フ特ニ航空燃料油、機械油ニ於テ然リ

二、(石井)無條件參戰ナリヤ

(外)独大使トノ交換公文書ニ依リ「攻撃セラレタリヤ否ヤ」ハ三締約國間ノ協議ニ依ルト云フ

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

コトニナシアリ、先方ハ當然ナリト云ッタ
ガ念ノ為書キアリ
之ヲ認定セバ参戦ノ義務ヲ生ズ但シ何時
如何ナル方法ニテ参戦スルカハ自主的ニ
持寄リ協議シテ決定ス

(二)「直ニ」ト云フ字ガナイカラマアヨカロー!
混合専門委員會ハ軍事的専門委員會ト思フ
ガ軍事的、経済的トノ説明ガアッタガ如何

(外)軍事委員會ハ三ヶ所ニ置イタガヨイ併シ経済
委員會ハ一ヶ所デヨイト思フガ之カラ相談シ
テ決定ス、又之ハ軍事委員會ノ一部ト見ルコ

海軍

トモ出来ル

(三)単独媾和セズトノ條項ナキハ如何
之ガ無イカラ欠陥トハ云ハヌガ併シ独伊ハ勧ム
スレバ同盟ノ義務ヲ急リ勝ナリ

(外)先方ハ之ニ触レナイ、寧ロ避クル態度ナリ
本條約ハ元々戦争防止ノ條約ナル故媾和
トカ休戦トカノ條項ナキヲ可トス、之アルコ
トハ戦争目的ヲ同盟トナル恐アリ
尚媾和、休戦等ハ當然ノコトナル故一旦開
戦トナレバ其ノ時総合シテ宜シイ

英譯全集十三行算紙（本田）

B-0059

0200

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

(四)右ニ同意ナリ第一條ノ「欧洲ノ新秩序建設」トハ何ヲ云フカ日本ノ之ニ對スル義務ハ分明ナラズ

(外)八紘一宇萬邦ヲシテ其ノ處ヲ得シムルヲ恒久平和ノ基礎トスル之ガ新建設ナリ

三、(有馬)

本條約ニ依リ日米戦爭ノ起ルノヲ避ケ度イ然シ日米戦ハ宿命的ノ様ニ思フ一方米海軍ハ益軍備擴充スルヲ以テ等々今日開戦スル方ガ日本ニ有利ト思フ唯心配ナノハ石油ナリ先ニ海軍大臣ノ話ニアツタガ一年二年デ戦爭ハ終ラナイ野油ハ長ク續カ又、人造石油ノ見込如何

海軍

(海)人造石油ハ漸ク緒ニ付イタノミ北樺太、蘭印ヨリ入レル様施策中、但シ之モ相當困難ナリ、唯開戦ト云フモ直ニ決戦トモナルマイ總テモ併セ考フル積ナリ

(二)「イソガクタンレ」油如何

(海)專門研究機関ヲ設ケ海軍自体ニテ精製ス重油ト併行的ニ考慮中、大丈夫トハ申サレヌガ米國ヨリ入ラナクトモ相當準備可能ナリ

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

三、（　）

第三條ニ蘇ヲ含ムヤ、「スターマー」ト蘇トノ間ニ如何程ノ話合アリシヤ

（外）第三條ニハ蘇ヲ含ムモ第五條ニテ緩和シアリ

「スターマー」ハ蘇ト話合ハシテ居ラスト云ツタガ恐ラク何カ話シテアルト想像スルモスコーニテ東鄕大使ト話シタ点ト伯林ニ於ケル「リッペン」来栖間ノ話合ヲ比較スルトソコニ何カ蘇ニ話シタ様ニ結論付ケラレル

海軍

（二）米蘇関係如何

（外）當然アリソウナルガ確證ナシ

四（石塚）

独トノ過去ノ関係ヲ見ルニ独ハ信用シ得ザル点多クアリ今回ハ充分彼ニ誠意ヲ要望スル必要アリ

五（清水）

署名ト共ニ効力ヲ發スト云フガ批准トノ関係如何

重慶ニ独人技師、兵器輸入トノ事實アリト云フ如何

委任統治領ヲ日本ニヤルトキノ代償トハ何カ

（外）御裁可ニ依リ署名ヲ以テ効力ヲ生ゼシメ批准

B-0059

0202

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ヲ不要トス

独ハ「ベルサイユ」條約ヲ認メスト云フ見地ナリ

故ニ永遠ニ禍根ヲ残サヌ様一應独逸ニ

返還シソレヲ日本ガ譲リ受ケルト云フ

形式ナリ

六(菊)

伊國ノ誰ガ承認シタカ

(外)九月二十五日伊大使来リ亀絲ヲ返ベタリ

「リツペン」ヨリハ四日前ニ伊承認ノ電アリタリ

(二)九月十九日ノ御前會議ノトキハ伊國ハ参加シ

アラザリシト思フ

海軍

(外)本御前會議ハ北ノ要綱ニテ交渉ヲ致シ度イ

トヽ云フコトヲ御願申上ゲ御許ヲ得タノデ

此ノ御許ヲ得ザレバ政府ノミデ踏入リスルコ

トハ出来ナイ

尚伊國ハ独國ニマカセテ居ル

(三)伊國ノ手メ内話ヲ得タリシハ確信ヽ

欧洲ハ地理的ニ劃然トシテルガ大東亜ハ明瞭

ヲ欠クガ如何

(外)記録ニ残シアリ

(四)日英間ニ武力衝突ナシト断ジ得ズ之ガ萬々

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

アリ得ナイト云フ論據如何

(外)独ハ早ク戦爭ヲ止メタイ希望ヲ有シ日本ニ同様ニ考フ、併シ大東亜ニテ日英衝突セズト断言ハ出来ナイ、独モソレハ了承シアリ唯独ハ一方的ナル故アル約束ヲ好ンデ居ラヌ

(五)今回ノ條約ノ提議ハ何レヨリ發動セシヤ

(外)独ヨリ提案シ我之ニ應ジタルモノナリ

(六)提議以前ニ何カ話合アリシヤ

(外)八月一日「オットー」大使ヲ招致セル際種々質問ヲ發シタルノミ

海軍

(七)独逸ハ何ノ目的ノ為ニ此ノ提議ヲ發セルヤ

巷間傳フル所ニ依レバ英独長期作戦トナリ米國ノ參戦トナル恐アリテ日本ヲ引込ミタリト云フ、

米國ハ目下選擧戦ニテ不介入ノ態度ヲトリ居ルモ選擧後ハ參戦ノ恐アリト思フ

(外)半面ノ理由アリト思フ併シソレガ全部ニハ非ズ何十年ノ永イ眼デ見ネバナラヌ前文ニ「長期ニ亘ル一致スベキ理念」ヲ表シアリ

「スターマー」ハ米國ハ歐洲ニ對シ參戦ノ危険ナシ併シ却テ日本ニ對シ挑戦ノ危険アリト申セリ

B-0059

0204

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

(八) 米ヲ牽制スル効果アリ併シ日英ノ悪化ハ蓋シ對米悪化トナル、独ト米ノ接近ニ考(ラル「ヒツトラー」ノ言ニ「正直」ハ政策ニ入レナイト果シテ独ニ不信ナキヤ

(外)予ノ意見ヲ以テスレバ三年内ニハ必ス日米戦争ガ起ル可能性ガアル故ニ之ヲ極力避ケ度イ一方「ヒツトラー」ガ命令ヲ下セバ立来独乙人ヲ動カシ日米戦ヲ惹起セシムルコトガ容易デアル故ニ之ヲ逆用シ日米衝突ヲ喰止メタル

(九) 欧洲戦ヲ早ク片附ケ度イ、併シ之ハ希望ニ過ギナイ、支那事変ニ不穏火トカ早ク処理シ様トカ希望ヲ持ツテ居ルガソノ様ニ運バヌ前者ニ付外相ニ何カ確信アリヤ

(外)明年ハナシ得ナイ努力善処シ度イ云フ所ナリ之ヲ為サンニハ独ト堅ク結ビ國交調整ヲ急グニアリ、独ト結バヌトキ恐ルルハ英独結ンデ欧洲聯盟ヲ作リ其ノ力デ南洋ヲ管理セントスルコトナリ

海軍

(一〇) 物資ハ逐次ハヨイトシテ長期戦ニ心配ナリ石油特ニ然リ、平時民間ダケデ五百万噸ヲ要スト聞ク

英澄全集十三行罫紙（本田納）

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

(企)官需、民需ハ解ルガ軍需ハ企画院ニハワカラス
目下航空揮發油ニカヲ注ギツツアリ、消費
規正スルト共ニ國内生産ヲ為シ海外ヨリモ
トレルダケトル

(二)理解出来又、戦時ハ平時ノ三倍ヲ要ス、平時五百万
噸トシテ戦時ハ千五百万噸ヲ要ス國内生産ハ
三十万噸人造石油ハ如何様ニテハ三百万噸ト
云フ樺太ヨリハ二十三万噸位ト思フ蘭印ハ全
部デ六百万噸併シ之ハ飛行機用ニハナラヌ
コウ見ルト成算ガタヽヌ

(陸)對米戦ハ陸軍トシテ一部ノ兵力ヲ使用スルノミ

海軍

蘇ガ渦中ニ投ズレバ支那ニ居ル軍隊ヲ端洲
ニ移ス外ナシ
油ハ陸軍トシテモ弱点ナリ自信ガ充分ナイ
ガ全力ヲ注イデヤル併シ油ノ有無ガ本條約ノ
終テデハナイ、死中活ヲ求メンノミ
支那事変ノ解決、南方施策等デ困難ヲ克
服スル

(企)石油問題ハ困難デ政府ノ憂慮茲ニ在リ
之ガ為ニハ對蘇國交調整ニ依ル北樺太解決
人造石油生産擴充等努メル、併シ無論近キ
將来石油ノ心配解消セリト云フ日ハ来ナイ

(二)艦艇多数支那ニ派遣シアリト思フ之ハ日米戦

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ノ場合使用出来又

(海)支那ニ居ルノハ主トシテ河川用ノ小型ノモノナリ大平洋上ニ使用ハ出来又

油ハ量的ニハ甲乙又ガ長期ハ困難ナルガ年年トカ一年トカ云フ短期ノモノデモナイ

無論國交調整デ成ルベク多量輸入シ得ル様ニ度イ

(一三)補充心ス、併シ北樺太ハ多クハ望マレヌ

次ニ予算ハ三十億ガ今日百億ニナツタガ戦政ノ見透如何、國力ノ持續如何

(陸)財政窮窟トナルハ免レヌ

海軍

戦源トシテハ公債(國民貯蓄)租税(國民所得)ニテ百二十億ハ大丈夫デ此ノ数年ハ進ミ得ル最悪ノ場合三億位トナレバ他ノ行政費ヲ節約シ之ニ充ツル

(一四)日蘇國交調整ガ出来タ後此ノ條約ガ成立スルヲ可トシタラン、蘇ノ向背ハ重視ノ要アリ

(外)日蘇國交調整ヲ努メタルモ現在ハ強ント拒絶的回答ヲ蘇ヨリ得アリ、独蘇ノ関係ハ深キヲ以テ独ヲ利用シテコト初メテ蘇トノ調整ガ出来ル

(一五)米國ハ恐ラク遅擧後中立法ヲ改正シ自國船

美濃企業十三行罫紙(本田紙)

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ニテ物資ヲ英國ニ送ルベシ之ガ第三條ノ「參入」ト
ナラザルヤ

（外）其ノ時ノ事情デ決定ス「攻撃」ニハ公然ト
隱密トアリ例ヘバ米國ガ濠洲「ニュージーランド」
ト共同防衛ヲ約定シ「シンガポール」ニ米艦隊ノ
入レル、之ハ公然ノ攻撃デハナイガ隱密ノ攻撃
ナリト「スターマー」ハ申セリ一方独ニ對シテハ米國
ハ加奈陀ト共同防衛シ駆逐艦ヲ貸ルガ公然攻撃
デハナイ「スターマー」答フ
要スルニ本條約ハ戦争ノ防止ニ在リ故ニ現ニ行
ハレテ居ルコトヲ攻撃ナリト認定セヌ又少シ
露骨ニナリテモ努メテ見ヌ振リヲスル

海軍

（一六）蘇ヲシテ援蒋ヲ止メシメナイカ
（外）独大使ハ日支ノ和平斡旋ヲヤリ度イト云フ
之ハ断ッタガ實ハワザトヤッタノデ之ガ出来
ルナラ大ニ独ノ力モ借リ度イ
七、（宗良）特ニナシ
（副議長）御諮リシマスガ實ハ本日中ニ御前會議ヲ
終了スル予定デスガ成ル可ク重復ナキ様
質問セラレ午后六時頃ニハ委員會ヲ終リ
度イ
八、（荒木）日英又ハ日米戦争ノ場合軍人ノ胸部疾患
相當アリト云フガ戦力上如何

英義余葉十三行解紙（本田稿）

16.

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

(陸)國民体力向上ニ努ム、厚生省ト連絡シツツアリ
目下相當アルノハ戦地勤務ノ過労ニ在リ
(海)胸部疾患ノ多クナツタノハ早期診定ノ為
以前ニハ病人ニシナイヲ病人ニスルコトニ在リ
併シソレダケ大事ニ至ラズシテ快復スルコト
トナル
工員ノ体力向上ニハ充分注意ス
尚胸部疾患ニ對シテハ温泉病院ヲ完備シ
療養ノ途ヲ講ジツツアリ

九、(菅原)秘密議定書アツヤ、伊ヲ除外セル傾向アリ
防共協定トノ関係如何
對米戦ノ軍事上ノ覚悟ハヨイトシテ財政上心配ナ

海軍

キヤ
(外)三國間ノ秘密議定書ノ案モ出タガ取止メトナレリ
防共協定ハ依然存續ス但シ防共觀念ト離レ
蘇トノ國交調整ハヤル
三國仲間剣レスルトキハ本條約ノ終トナル
(蔵)對米戦トナレバ戦争ハ膨張シ國民ノ負担ヲ
増スベシ、充分國内体制ヲ整フルコトニ依リ
克復ス

(一〇、松浦)本條約ハ日米戦ヲ防グニ在ルガ萬一ニ備フル
要アリ太平洋デヤツテルノニ北方デモ衝突ス
ルコトナルハ日本トシテ甚困難ナリ、北ヲ收メ
ル即チ對蘇國交調整ニハ充分力ヲ注ク様

美濃全紙十三行罫紙(本田)

B-0059

0209

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

切望ス

二、(潮)最悪ニ至ランデモ國情悪化ス國策ガ之デ行クト云フナラ國民ニ新覚悟ヲ促ス要アリ

支那事変初ツテ四年國民ハ疲労ヲ感ジアリ

其ノ陳ニ乗ジ赤ガ活躍スルコトシテ夫ハ今迄ノ様ナ思表的ナ人物デナク新シキ青年層ニ存ス

國民士氣ノ作興生活必需品ノ確保ガ必要ナリ

(企)物動計画ニ考慮シアリ、食糧、衣糧品、水産業中小農工業ニ有利ノ地位ヲ與フ

米ニ関シテハ管理、消費、外来輸入等考慮シアリ、木炭又然リ

海軍

(陸)七月二十六日ノ基本國策要綱ニ國防國家、國民生活ニ関シ策定シアリ

三、(林)蘇関係如何

(外)北樺太石油ニ對スル労働者「モロトフ」ノ演説ニ依ルトキハ好否相半ス

蘇ハ何故ニ英佛ト協定セズ独ト結ビタルヤ

原ノ有スル確實ナル情報ニ依レバ「スターリン」ハ「ヒットラー」ニ強要サレタト云フ、独ヲ恐レテ居ル限リハ日蘇國交調整可能性アリ

支那事変ニ對スル和平仲介又然リ

自分ハ身ヲ以テ独蘇ニ乗込マント決心シアリ

美濃今業十三行罫紙（本田稿）

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

一三、(深井)

(一)第三條ノ軍事的援助ニ関シ独ヨリ何ヲ期待スルヤ

(外)兵器類殊ニ人造「ゴム」ノ如キ工業又然リ

大西洋ニ於ケル脅威ニ無言ノ援助ナリ言質ハトフラ居ル

(陸)兵器ヲ得ルコトハ日本ニ非常ナ援助トナル

但シ蘇ノ了解ナクシテハ運搬出来メ

(二)独ガ蘇ヲ牽制スト云フガ如何

(陸)独ハ目下對英戦ニ全力ヲ注ゲ之ガ独蘇國境ニ兵力ヲ控置シアリ之ガ相當ノ牽制トナル

即チ蘇ノ兵力ハ此處ニ控置サレル

海軍

(三)過般ノ独蘇協定締結ノ際帝國ガ抗議セリト云フガ結果如何

(外)抗議ハ独政府ニ提出セラレタリト考ヘラレズ

(四)経済ノ全部ヲ軍備ニ向ケラレルカ

(義)最大限向ケタイガ全部トハイカヌ

(五)信頼感情ヲ一方ニ偏向サセテハイカヌ

国際関係ハ相互信頼ニアルガ利害関係ガ常ニ存スルヲ考フベシ

條約前文ノ萬邦其ノ處ヲ得シムトアルガ「ヒトラー」ハ民族中心ニテ他ヲ犠牲ニスル弱肉強食ノ思想アリ之ガ天地ノ公道カノ如ク云フ不安ナキヤ

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

(外)利害得失ノミデ動イテハイカヌ道義外交ノ要アリ皇道宣布ハ余ノ念願ナリ、意論理想論ニ依ハラテハイカヌガ前文ハ独トシテ全幅的ニ認メタトハ思ハヌガ少クモ此ノ帝國ノ國是ヲ認メシメタノハ外交史上之ヲ以テ初メテト思フ

(六)總理ニ質問ス、日米戦ハ不可避ナリトスル前提トスルニ於テハソレデヨイガ併シ英米ト手ヲ握ル余地モアルニアラズヤ

独側ヨリモバ極メテ有利ナル條約ナルガ日本ニハ必ズシモ然ラズトモ考フ欧羅戦終了後日米戦アレバ独ハ全力援助出来ルガ今日ハ強ント援助ヲ期シ得ズ軍事資材、國民生活上ノ物資、民心不安等之等ヲ切リ抜ケル自信アリヤ

(外)何ニモズニ推移スルモ三年内ニ日米戦不可避ナリ、故ニ之ヲ防止スルニ努ム、少クモ日本ニ有利ナル時機迄延シタイ本條約ヲ急イダノモコヽニ在リ

海軍

米國ニ對シテ媚態デハ行詰ル結局支那ヨリ退却セネバ手ヲ握ルコトハ出来ヌ南方問題又然リ

蹉跎シテル間ニ遠巻トナリ脅威サレル本條約ハ日米戦ヲ避クルニ在ルガ一時ハ非常ニ悪化スルハ已ムヲ得ナイ、併シ此ノ際軽佻ナル排英米ハ絶対ニ禁止ス

美濃全紙十三行罫紙（本田紙）

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

要スルニ毅然タル態度ガ第一ナリ

（總理）本條約ノ根本ノ考ハ日米ノ衝突回避ニ在リ
ソコデ親善ノ手デ行クカ又ハ毅然タル態度
デユクカ前者ハ絶望ナル故後者ヲトレリ
但シ之ハ希望ニテ事實ハカク許リハ行
カザラン、ソコデ凡ユル角度ヨリ見テ異
常ノ決意ヲ以テ内奏スル所 聖上ニ
ハ御軫念被遊種々御下問アリシガ遂ニ
御裁可トナレル次第ナリ、御決意ノ
程々御察シ申上ゲ恐懼措ク能ハザル
所ナリ

美濃全集十三行罫紙（本田納）

一四（二上）

海軍

（一）樞密院ニ御諮詢ニナレルハ何レノ書類カ
日本文ハ本文ナルヤ、發表スルヤ
（外）御諮詢ハ條約案文ノミナリ交換公文書
ハ參考ノ為配布セリ、尚第三ハ伊國ニ對シ
秘密ナリ
英文ヲ基礎トシ署名スル筈ナリ但シ本文
ハ日独伊語トナル

（二）第三條ノ後段ノ「or」ハ英文トシテ間違ヲテル
様ニ思フ「either nor」トスベキナリ
第五條ノ「狀態」ハ独蘇不可侵條約アル間ハ
蘇ガ日本ト戰爭シテモ独ハ援助セザルコト
トナルニアラズヤ

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

(外)元々「Sphere」ヲ「Zone」トナシアリシガ「リッペンガ修正セリ、現在「ポーランド」ニ於ケル独蘇関係ノ如キヲ指ス、援助ニ関シテハ相互的ト了解済ナリ

(三)御諮詢書ニ関シテハ甚曖昧ノ個所アリ顧問官ノ意ノ懇談ニテ決定シ度シ

一五(大島)

大東亜ノ地域ニ関シ将来独乙ニゴマカサレヌ様用心スベシ

日蘇ノ國交調整モ三年トハ續カザルベシ

海軍

一六(　)

過去三年間日支事変片附カズ國力ノ消耗大ナルノ時太平洋ノ一國ト干戈ヲ交フルニ至ルガ如キ條約ノ要アリシヤ否ヤ逐次了解セルガドウモ此ノ條約ハ片務的ニ思ハレル、日本ノ犠牲多キ様思ハレル

(外)独米戦争ト日米戦争トノ生起公算ハ五分五分ナリ先ニモ申シタ通リ放ッテ置ケバ独側ヨリ日米戦ヲ誘引スル恐アリ決シテ日本ニ不利ニアラズ

一七(竹越)

英語全葉十三行罫紙(本田綴)

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

最悪ノ状況ニツアリ、米國ガ歐洲戰ニ參加スルト日本ニ直接挑戰スルトナリ、特ト場所ハ日本ガ自主的ニ選ブヤ

(外)「攻撃セラレタルヲ充分研究シテ三國間ニ協議、更ニ參加方法、時機ハ日本ノ自主的考究ノ下ニ独伊ニ協議ス

一八(鈴木)

本條約ノ有無ニ拘ラズ日米衝突ヲ避ケ難イ故ニ此ノ條約アル方ガ日本ニ有利ナリ

米國海軍士官ハ殊ニ好戰的ナリト聞ク

但シ又今ノ所米國海軍ノ力ハ日本ニ挑戰ハ出来ヌ日本ノ海軍力又然リト思フ、即チ米ノ一〇ト日本ノ六トデハ両者積極ニ出テレタ唯此ノ数年後ニナルト米海軍ハ二倍以上ニナル米海軍ノ某提督ハ日本ヲ屈スルニハ米海軍ハ二倍デハ足リナイ今日ハ米國ハ之ヲ目論ミツツアルト思ハレル、日本海軍モ其ノ準備ヲ必要トス、之ヲ急ルハ結局米國ヲシテ挑戰サセルコトトナル

海軍

(海)現在ニテハ即戰即決ナラバ自信アリ、將来計畫ニ関シテハ米海軍ノ「スタルク」案モ考慮シ準備中ナリ之ニ對シテハ首相初メ関係閣僚ノ了解モ得テ着々進行セントシツツアリ

美濃金第十三行罫紙(本印刷)

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

一九（石井）

委任統治領ニ関シ更メテ質問ス、外相ハ独乙ハ「ベルサイユ」條約ハ無効ナリト考フト云ハレタガ之ハ帝國トシテハ批准御裁可ヲ得タモノデ南洋群島ハ日本ノ確乎タル領土ナリ條約案ニハ同意スルモ参考書類中ノ此ノ交換公文書ニハ同意出来ズ

（外）南洋委任統治領ハ領土権ノ獲得ナリヤ否ヤニハ議論アル所ニテ國際法ノ権威立博士ハ領土ノ割譲ニアラズト論定シアリ

余ハ之ヲ政策的ニ考慮シ独乙側ハ「何等カノ代償ハ三包ノ珈琲ナリシト云ッテル次第モアリ将来ノ禍根ヲ残サザラン為「引續キ日本ノ属地タルヲ承認」セシメタルモノナリ

海軍

二〇（三土）

経済圧迫ノ為ノ経済急迫、貿易ノ逼塞、民衆ノ節約、國民生活ノ新体制ヲ要ス

為日本人ハ同盟トナルト永久ノ親類ノ横ニナリ一方之ガ敵國ヲ一緒ニナッテ敵視ス

排英米ニ充分ノ留意ヲ要ス

（企）経済圧迫ハ覚悟セザルベカラス、之等ニ関

英渡会第十三行罫紙（木田納）

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

シテハ目下検討中ナリ充分善処方
努力スベシ

（副議長）
質問意見終了ト認ム
報告ヲ整理スル必要アリ、御都合ヲ
伺ヒタル後本會議ノ時刻ヲ御知ラセス
（終了）

備考
本會議ハ午后九時半ヨリ十時十分迄審査
委員長ノ報告
石井顧問官同意可然陳述アリタリ

海軍

B-0059

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/